佐久市埋蔵文化財調査報告書　第211集

長土呂遺跡群　上聖端遺跡Ⅱ

長野県佐久市長土呂上聖端遺跡発掘調査報告書

２０１２.１２
エフビー介護サービス株式会社
佐 久 市 教 育 委 員 会

例　言

1　本書はエフビ－介護サ－ビス株式会社　代表取締役　柳澤　秀樹による平成23年度本社及び福祉用具メンテナンス物流センタ－建設事業に伴う、長土呂遺跡群　上聖端遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
2　事業主体者　佐久市長土呂159-2　エフビ－介護サ－ビス株式会社　代表取締役　柳澤　秀樹
3　調査主体者　佐久市中込3056　佐久市教育委員会　教育長　土屋　盛夫
4　遺跡名及び発掘調査所在地　　長土呂遺跡群　上聖端遺跡Ⅱ（ＮＮＫⅡ）
　　佐久市長土呂159-1、159-2、159-3番地
5　調査担当者　上原　学
6　本書の編集・執筆は上原が行った。
7　本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1　遺構の略称は以下の通りである。
　Ｈ－竪穴住居址　　Ｆ－掘立柱建物址　　Ｍ－溝状遺構　　Ｐ－ピット
2　スクリ－ントーンの表示は以下の通りである。
　遺構－地山断面　　焼土　　粘土
　遺物－須恵器断面
3　挿図の縮尺は以下の通りである。
　遺構－竪穴住居址・掘立柱建物址・溝状遺構・ピット　1/80
　遺物－土器・石器・鉄製品　　1/4
4　遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
5　遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
6　調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。

目　次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯 …… 1
　第１節　立地と経過及び周辺遺跡 …… 1
　第２節　調査体制 …… 2
　第３節　調査日誌 …… 2
　第４節　発見された遺構と遺物 …… 3

第Ⅱ章　遺跡の環境 …… 3
　第１節　自然環境 …… 3
　第２節　基本層序 …… 3

第Ⅲ章　遺構と遺物 …… 5
　第１節　竪穴住居址（Ｈ） …… 5
　第２節　掘立柱建物址（Ｆ） …… 10
　第３節　溝状遺構（Ｍ） …… 14
　第４節　ピット（Ｐ） …… 16

写真図版

抄録

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　立地と経過及び周辺遺跡

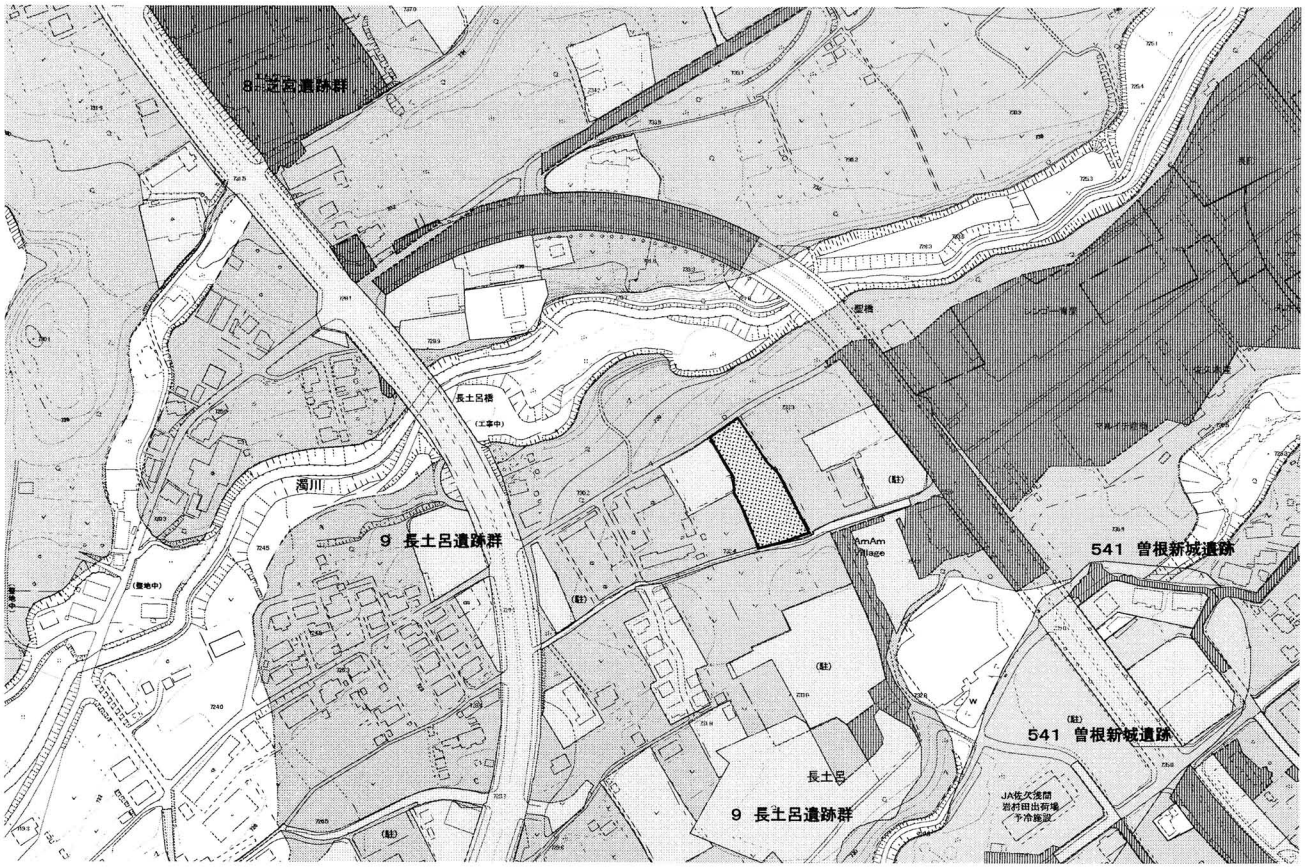
長土呂遺跡群は、浅間山の麓から放射状に広がる浸食谷に挟まれた細長い台地上（田切り地形）に展開する縄文時代から中世に至る幅広い時期の複合遺跡で、標高は705m～760mを測る。

今回調査対象地となった上聖端遺跡Ⅱは、南西方向に向かって緩やかに傾斜する田切り地形の台地上に位置する。標高は733m内外を測る。

遺跡の周辺地域では、1993年3月の上信越自動車道佐久インターチェンジ開通前後から、道路建設・流通団地造成・店舗建設など開発が進み、発掘調査も数多く行われている。代表的な遺跡としては、今回調査地域の北東で流通団地造成に伴い聖原遺跡の発掘調査が平成元年～平成7年にかけて実施され、古墳時代から平安時代を中心とした住居址が900軒以上調査されている。

今回、エフビー介護サービス株式会社により本社及び福祉用具メンテナンス物流センターが建設されることとなり、平成23年7月6日から7月7日にかけて試掘調査を実施した。その結果、住居址・溝状遺構・ピットが発見されたことから、開発主体者と協議を重ね、遺跡が破壊される建物部分について、記録保存を目的とした発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施した。なお、建物建設地域以外で発見された遺構については埋土保存とした。

長土呂遺跡群　上聖端遺跡Ⅱ位置図（1:50,000）



調査区位置図（1:5,000）

第２節　調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長　土屋　盛夫
事　務　局	社会教育部長	伊藤　明弘
	社会教育部次長	藤牧　浩（平成23年度）
	文化財課長	吉澤　隆
	文化財調査係長	三石　宗一
	文化財調査係専門員	林　幸彦（平成23年度）　須藤　隆司　小林　眞寿 羽毛田卓也　冨沢　一明　上原　学
	文化財調査係	並木　節子　神津　一明（平成23年10月～） 井出　泰章（平成23年4～9月）　久保浩一郎（平成24年度）
	嘱託職員	林　幸彦（平成24年度）
	調査主任	佐々木宗昭　森泉かよ子
	調査担当者	上原　学
	調査員	浅沼勝男　江原富子　小幡弘子　風間敏　狩野小百合　木内勇 小井戸秀元　小林百合子　清水澄生　滝沢三男　土屋武士 中嶋フクジ　比田井久美子　日向昭次　武者幸彦　渡辺長子 渡辺学

第３節　調査日誌

平成23年（2011）　6月16日　土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出。(93条書類)
7月6・7日　試掘調査。(住居址・溝状遺構・ピット発見)
7月21日～　文化財保護協議。(遺跡の破壊される建物部分の発掘調査を実施)
9月 6日　平成23年度埋蔵文化財発掘調査委託契約。
9月12日　発掘調査開始。重機による表土剥ぎ。
9月14日～30日　遺構検出･遺構の掘り下げ。図面作成・写真撮影等を行う。機材撤収。
10月 3日～　報告書作成作業。

遺物＝遺物洗浄・注記作業・接合復元作業・実測図作成・トレース・
写真撮影・図版作成。
遺構＝図面修正・写真整理・トレース・図版作成・原稿作成。

平成24年（2012）　1月18日　平成23年度埋蔵文化財発掘調査委託契約の変更契約。
2月29日　平成23年度発掘調査作業完了。

10月 1日　平成24年度埋蔵文化財発掘調査委託契約。
10月　報告書入稿。
12月　第211集　報告書刊行。

第４節　発見された遺構と遺物

遺　構	竪穴住居址	3軒	奈良時代	遺　物	土師器（坏・甕）
	掘立柱建物址	8棟	奈良時代		須恵器（坏・高台付坏・甕・蓋）
	溝状遺構	3条	奈良時代以前		石器（すり石・敲石・みがき石）
	ピット				鉄製品（鉄鏃・刀子）

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　自然環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。

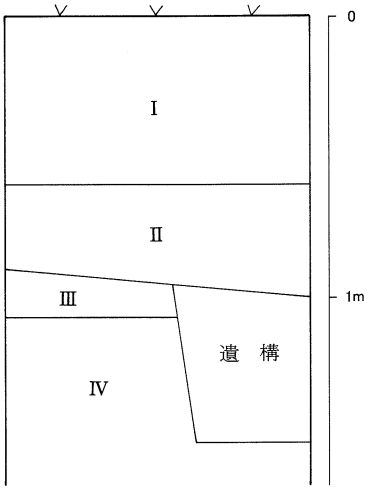
この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間の噴出物である火砕流軽石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く、長い年月の間に深く削り取られ、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り）を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主となり地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。

今回調査を実施した上聖端遺跡Ⅱは、北部田切り地形の台地上、標高733m内外の地域に位置する。

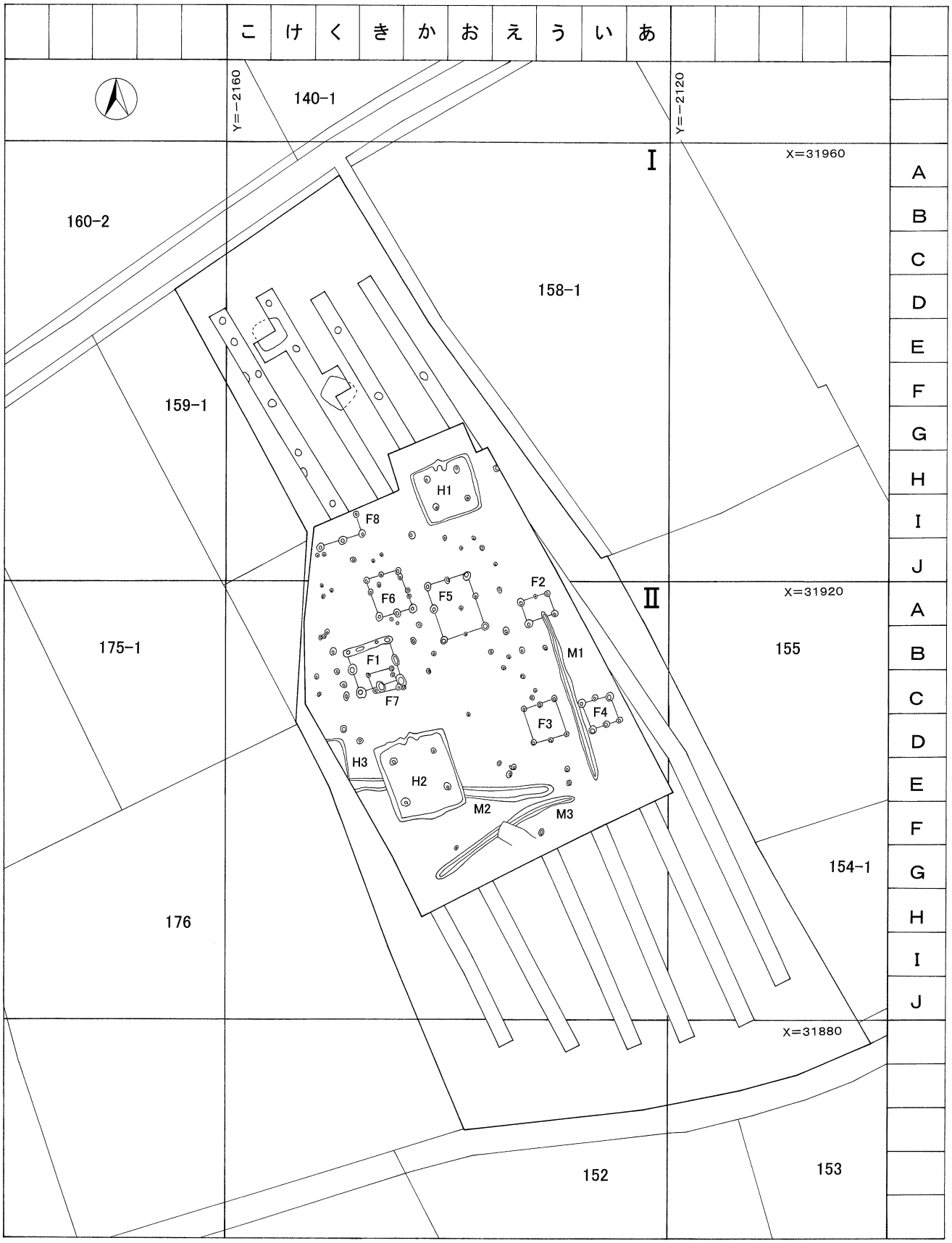
第２節　基本層序

佐久市北部地域は、現在の浅間山が形成される以前、2,800mを超える火山であった黒斑火山が山体を吹き飛ばす大噴火の後、現在浅間山の中心を成す前掛山に成長する過程で降下火山灰及び軽石流が大きく 2度に渡り堆積した。（下層から佐久市北部地域の第一軽石流・P1、佐久市北端地域の第二軽石流・P2）その厚さは 20mを超え、現在はこの堆積した黄褐色土ロームを表土である黒褐色土が覆っている。本調査区一帯は、資材置き場として利用されており、旧表土（耕作土）上に、約50cm内外の厚みで、埋土が施されている。



基本層序模式図

Ⅰ層は層厚50cm内外を測る埋土である。
Ⅱ層は層厚20cmを測る黒褐色土の耕作土で旧表土である。完全にすき取られ、存在しない地域も存在する。
Ⅲ層は層厚10cm内外の旧表土とローム層の中間に位置する漸位層である。僅かに遺構の存在が確認できる。
Ⅳ層は黄褐色ロームである。明確に遺構の確認ができる。

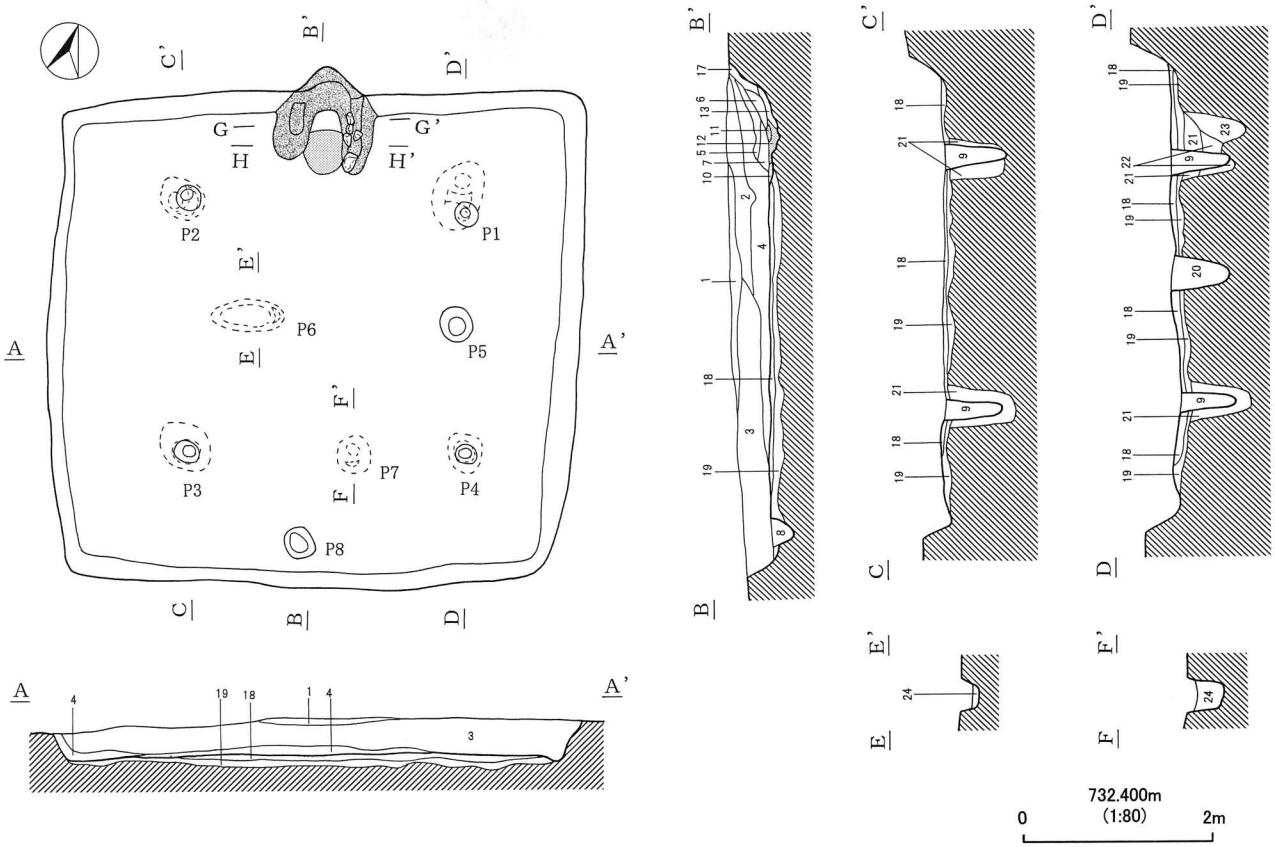


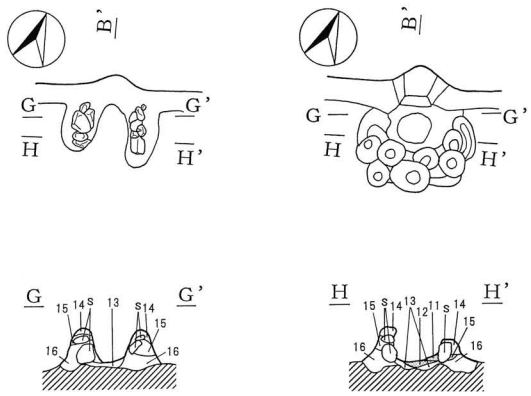
調査遺構・試掘トレンチ配置図（1:500）

第Ⅲ章　遺構と遺物

第１節　竪穴住居址（H）

Ｈ１号住居址

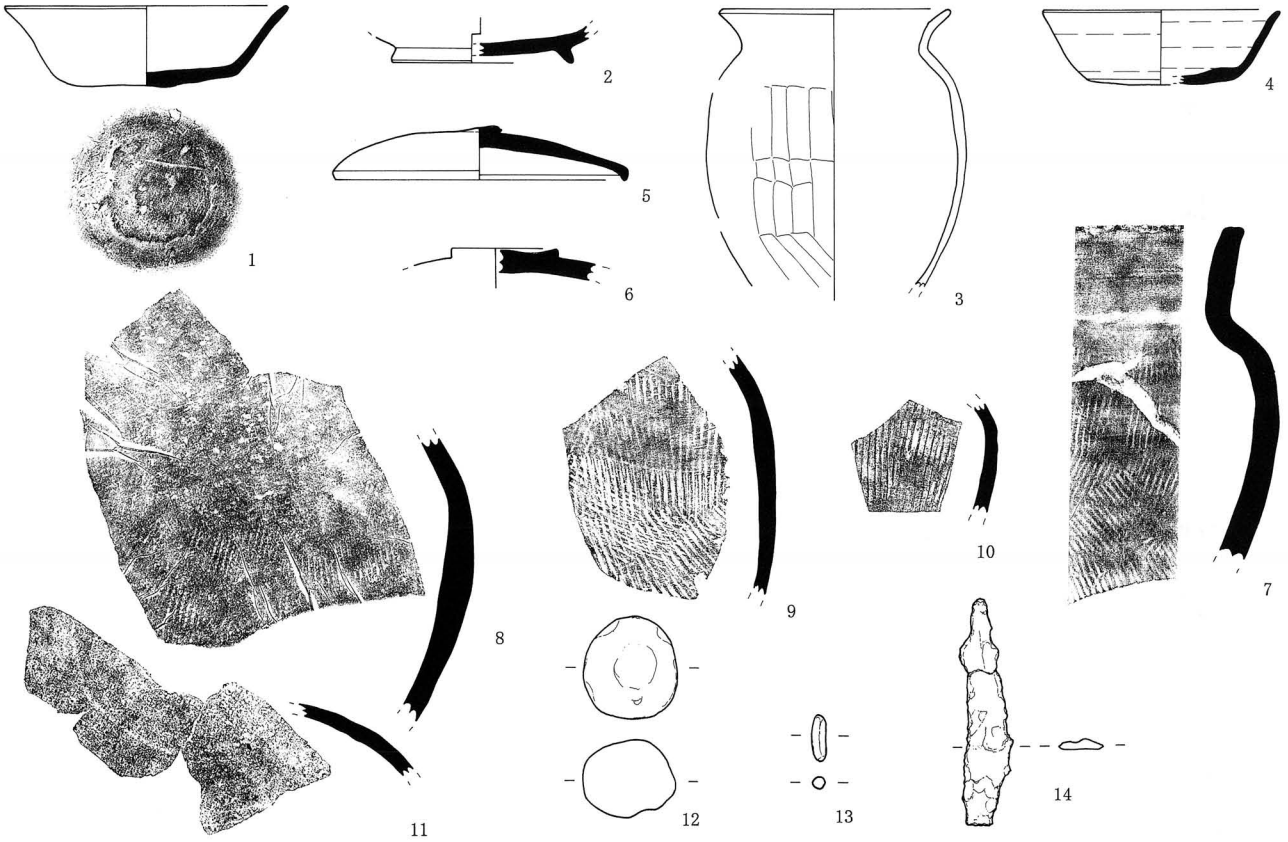




1　暗褐色土層(10YR3/3)ローム、軽石含む。
2　にぶい黄褐色土層(10YR4/3)粘土ブロック多い。焼土、ローム、軽石含む。
3　黒褐色土層(10YR3/2)ローム、軽石多い。
4　黒褐色土層(10YR2/3)粘土・焼土少量、ローム、軽石含む。
5　にぶい黄褐色土層(10YR4/3)粘土ブロック、焼土、炭化物、ローム、軽石含む。
6　極暗赤褐色土層(2.5YR2/3)焼土、灰、粘土、炭化物含む。
7　黒褐色土層(5YR2/1)焼土、灰、粘土、炭化物含む。
8　暗褐色土層(10YR3/3)ローム、軽石含む。しまりなし。
9　黒褐色土層(10YR2/3)しまりなし。柱痕。
10　黒褐色土層(5YR2/2)焼土、ローム、軽石含む。
11　暗赤褐色土層(2.5YR3/6)焼土含む。
12　明赤褐色土層(5YR5/6)焼土層。
13　暗褐色土層(7.5YR3/3)焼土、炭化物、灰含む。
14　明褐灰色土層(7.5YR7/2)粘土層。
15　にぶい褐色土層(7.5YR5/3)粘土層。
16　暗褐色土層(7.5YR3/3)ローム、軽石、粘土含む。
17　暗赤褐色土層(2.5YR3/3)粘土層。焼土化。
18　黒褐色土層(10YR2/3)黒色土、ローム、軽石の混合土。硬質。
19　暗褐色土層(10YR3/4)黒色土、ローム、軽石の混合土。ややしまりあり。
20　暗褐色土層(10YR3/4)ローム多い。しまりなし。
21　暗褐色土層(10YR3/3)ロームやや多い。軽石含む。
22　褐色土層(10YR4/4)ロームやや多い。軽石含む。
23　にぶい黄褐色土層(10YR4/3)ロームやや多い。軽石含む。
24　褐色土層(10YR4/4)ローム主体。しまりなし。

Ｈ１号住居址実測図

遺構は調査区北北東のＩ－か－Ｈグリッド周辺に位置する。規模は西壁4.5m、東壁4.7m、南壁4.8m、北壁5.1m、確認面から床面までの深さは40cm内外を測る。平面形態は方形である。床面はやや凹凸感のある貼り床が認められ、壁周辺部を除き、硬質である。壁周辺の床面上は軟弱であったが、明確な壁溝とおもわれる掘り込みは確認できなかった。ピットは床面上で6個、掘方で2個が認められた。主柱穴はＰ1～Ｐ4と思われ、床面上では、直径20cm内外の黒色部分のみ軟質で、周辺部の柱穴掘方部分上部には貼り床が存在した。軟弱な黒色部分が柱痕と考えられる。ピットの深さはいずれも70cm内外を測り、しっかりとした掘り込みを持つ。またＰ8は入口に関係するピットである可能性が窺える。カマドは北壁の中央に構築され、石材と白色粘土を多用した両袖が比較的良好な状態で残存していた。カマド中央の火床部分には、直径50cm、厚さ8cmの焼土が堆積していた。遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・蓋・甕、すり石・みがき石、刀子が出土した。須恵器底部全面にヘラケズリを施す成型方法及び形状、土師器武蔵甕頸部「く」の字状形態から、本住居址は7世紀、奈良時代としたい。

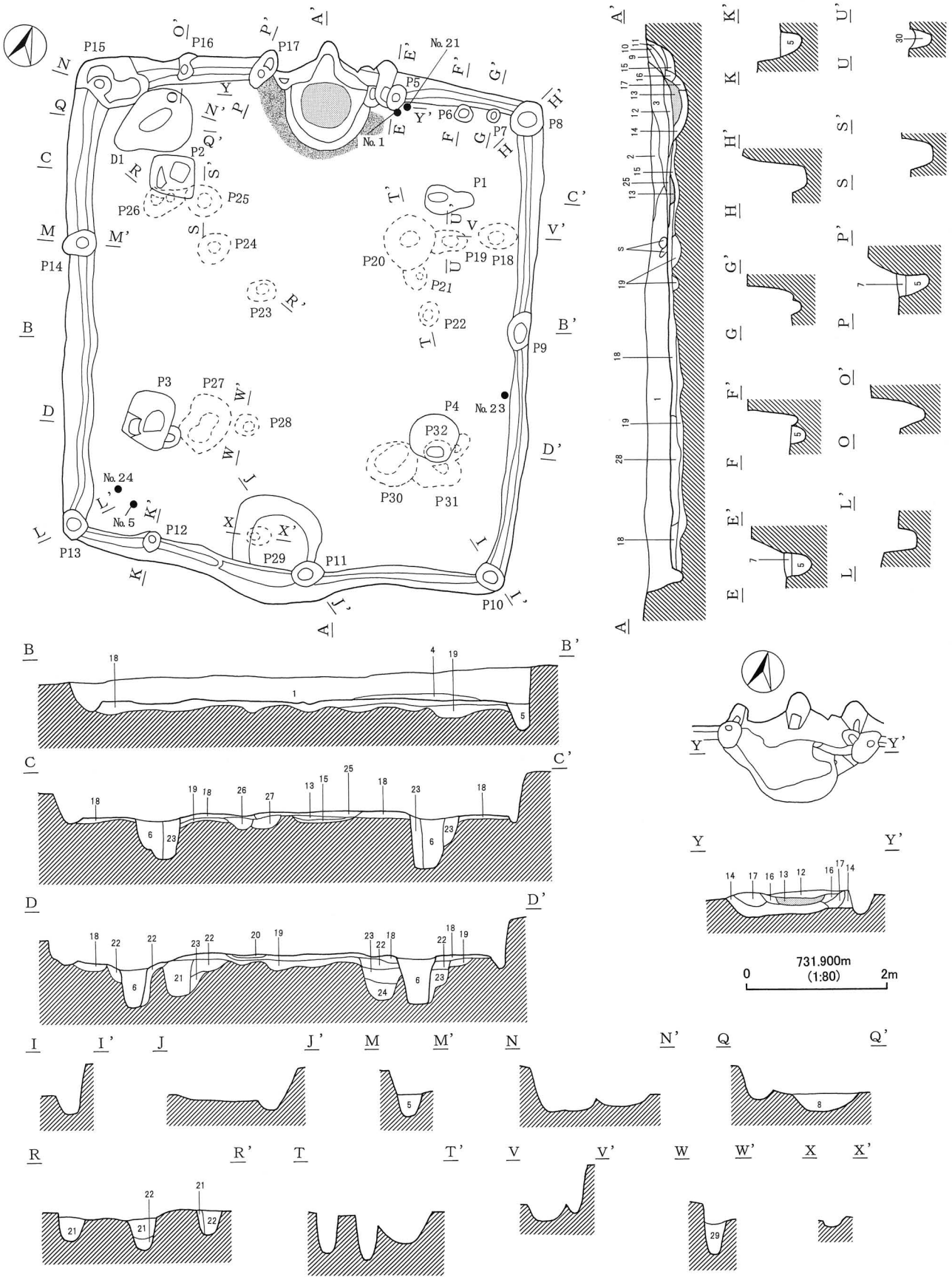


Ｈ１号住居址遺物実測図

番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
1	須恵器	坏	15	8.3	4.2	体部ロクロナデ、底部ヘラ切り。	80	内外面 5YR5/4 にぶい赤褐色
2	須恵器	高台付坏	－	[9.4]	－	底部ヘラ削り後高台貼り付け。	底部 40	外面 2.5YR5/4 にぶい赤褐色
3	土師器	小型甕	[12.2]	－	〈14.9〉	口縁、胴部外面上部横ナデ。胴部外面下部縦ヘラ削り。内面横ヘラナデ。	30	外面 7.5YR3/3 暗褐色
4	須恵器	坏	[12.6]	[7.4]	4	内外面ロクロナデ、底部ヘラ削り。	25	内外面 2.5Y5/2 暗灰黄色
5	須恵器	蓋	径 15.2	－	高さ 3	天井部ヘラ削り、つまみ欠損。	80	内外面 7.5Y7/1 灰白色
6	須恵器	蓋	つまみ径 5.6	－	－	皿状つまみ。	つまみ部破片	内外面 10YR4/1 褐灰色
7	須恵器	甕	－	－	－	口縁内外面横ナデ、外面平行叩き痕。内面胴上部横ナデ下部ヘラナデ。	口縁～胴部破片	外面 5YR3/3 暗赤褐色
8	須恵器	甕	－	－	－	外面叩き、内面縦ヘラナデ。	底部～胴部破片	外面 10YR6/1 褐灰色
9	須恵器	甕	－	－	－	外面平行叩き、内面ヘラナデ。	胴部破片	外面 2.5Y5/1 黄灰色他
10	須恵器	甕	－	－	－	外面平行叩き、内面同心円叩き。	胴部破片	外面 10Y6/2 オリ-ブ灰色他
11	須恵器	甕	－	－	－	ロクロナデ、外面自然釉付着。	肩部破片	外面 2.5Y5/1 黄灰色
12	すり石	重量 58g	長さ 5.4	幅 4.9	厚さ 4.1	ほぼ球状に成形。軽石製。		
13	みがき石	重量 2 g	長さ 2.5	幅 0.7	厚さ 0.7	全体に光沢あり。		
14	鉄製品刀子	重量 26 g	長さ 12	幅 2.4	厚さ 0.6	基部欠損。		

Ｈ１号住居址遺物観察表

Ｈ２号住居址

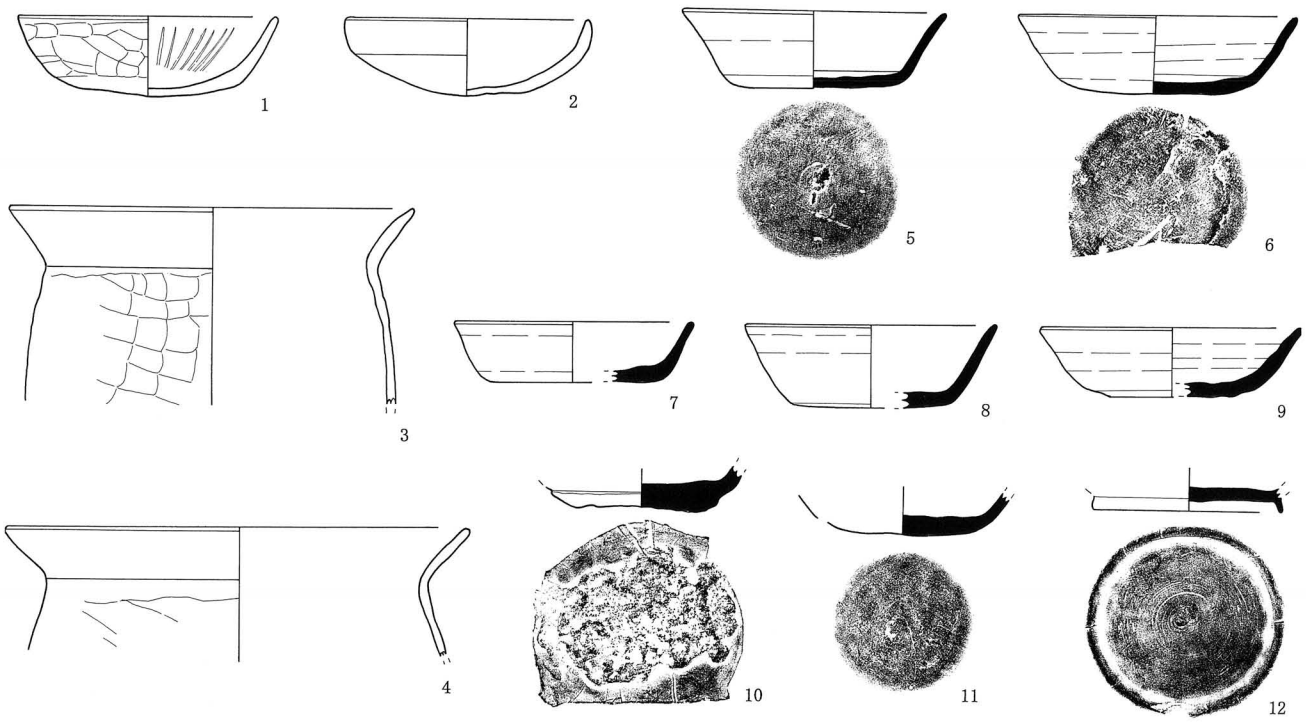


Ｈ２号住居址実測図

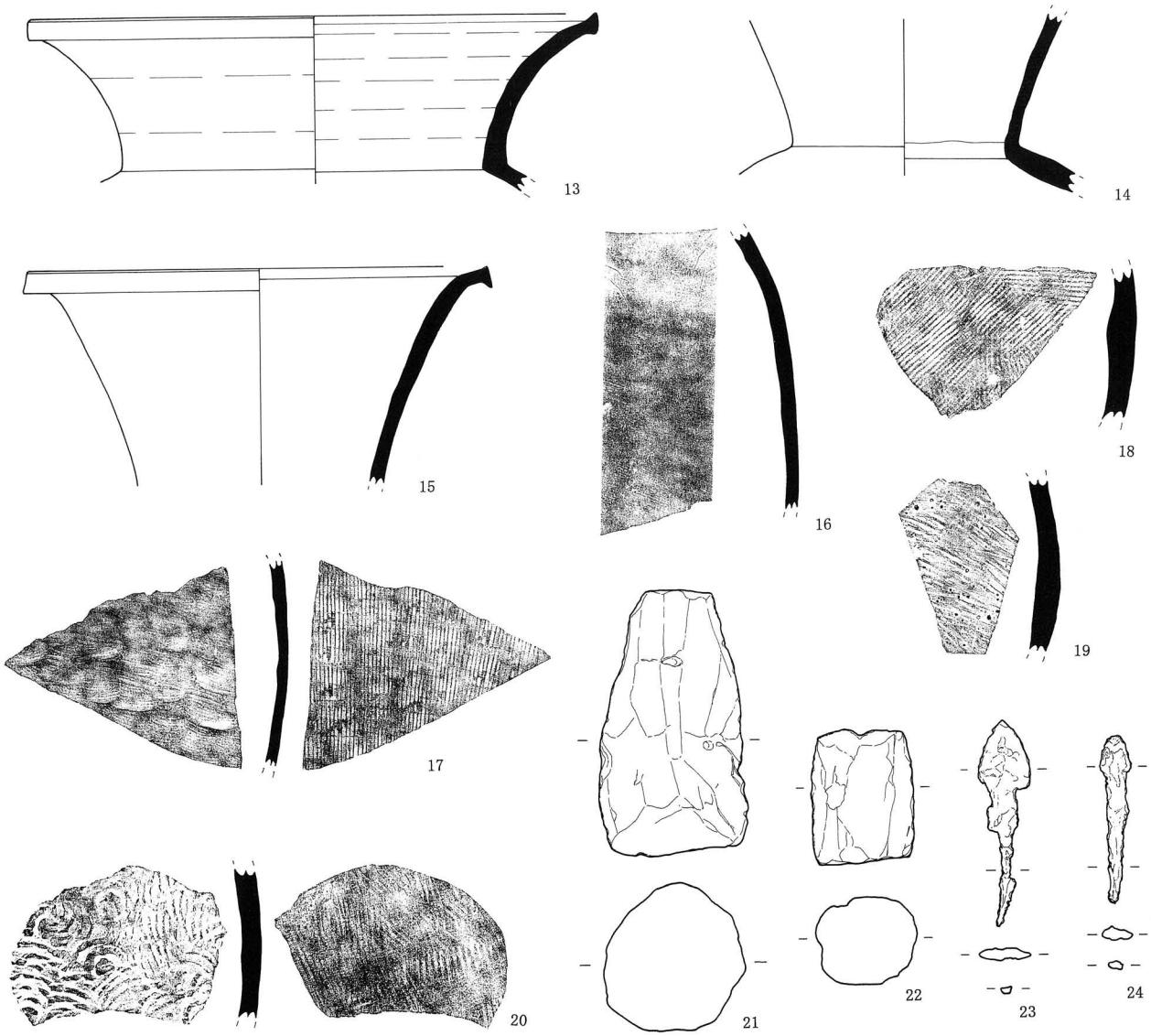
1　黒褐色土層(10YR2/3)ローム、軽石、炭化物含む。
2　にぶい赤褐色土層(2.5YR4/3)粘土、焼土、炭化物多い。
3　極暗赤褐色土層(5YR2/3)粘土、焼土、炭化物含む。
4　黒褐色土層(10YR2/2)ローム、軽石、炭化物含む。
5　黒褐色土層(10YR3/2)ローム多い。しまりなし。
6　暗褐色土層(10YR3/3)ローム、粘土粒、軽石含む。しまりなし。
7　暗赤灰色土層(2.5YR3/1)粘土、ローム、軽石含む。
8　黒褐色土層(5YR2/1)ローム、軽石含む。
9　明赤褐色土層(2.5YR5/6)焼土層。
10　暗赤褐色土層(2.5YR3/3)焼土層。粘土粒、灰含む。
11　赤黒色土層(2.5YR2/1)焼土、粘土粒含む。
12　にぶい赤褐色土層(2.5YR4/4)焼土層。粘土粒多い。
13　赤褐色土層(2.5YR4/6)焼土層。(火床)
14　にぶい赤褐色土層(2.5YR5/4)焼土、灰多い。しまりなし。
15　黒褐色土層(5YR2/2)焼土、炭化物、灰含む。ややしまりあり。
16　にぶい赤褐色土層(2.5YR5/3)焼土、灰、粘土含む。しまりなし。
17　黒褐色土層(5YR2/2)焼土、灰、粘土含む。しまりなし。
18　黒褐色土層(10YR2/3)ロームブロック、軽石含む。硬質。
19　褐色土層(7.5YR4/4)ローム多い。軽石、暗褐色土含む。
20　にぶい赤褐色土層(2.5YR5/3)粘土層。
21　黒褐色土層(7.5YR3/2)ローム、軽石、炭化物含む。
22　褐色土層(7.5YR4/3)ローム、軽石、炭化物含む。
23　灰褐色土層(7.5YR5/2)ローム主体。
24　暗褐色土層(7.5YR3/4)ローム、軽石含む。
25　にぶい赤褐色土層(2.5YR4/3)粘土層。硬質。
26　灰褐色土層(5YR5/2)ローム、軽石、粘土含む。
27　灰褐色土層(5YR4/2)ローム、軽石、粘土含む。
28　極暗褐色土層(7.5YR2/3)ロームブロック、炭化物、焼土含む。
29　暗褐色土層(7.5YR3/3)ロームブロック、軽石含む。しまりなし。
30　灰褐色土層(5YR4/2)ローム主体。黒色土、軽石含む。

遺構は調査区の西側、Ⅱ－き－Ｅグリッド周辺に位置し、部分的に攪乱の影響を受けて床面が削られている箇所も認められた。規模は西壁6.8m、東壁6.9m、北壁6.4m、南壁6.4m、確認面から床面までの深さは35～65cmを測るやや大型の住居址で、平面形態は方形である。床面は全体に貼り床が施され硬質である。壁周辺には幅20cm、深さ15cm内外の明確な溝が存在する。ピットは床面上で大小18個確認できた。主柱穴はＰ1～Ｐ4と思われる。いずれのピットも直径60cm内外の範囲が軟質であった。また、住居址コーナー、カマド周辺など壁溝内に柱穴と思われるピットが多数存在した。北西コーナーに不整形の落ち込みが認められたが、貯蔵穴と呼べるような状態の掘り込みではなかった。カマドは北壁中央に構築されているが、火床以外の構築物は完全に破壊された状態であった。カマドから住居内に向かって、何かに押し出されたかのように粘土の堆積が拡散していることから、住居が堆積物に覆われる段階で、北から南方向に向かって大きな力が働いたようである。火床には直径70cm、厚さ10cmの焼土が堆積していた。火床の規模から住居址同様、大型のカマドであった様子が窺える。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・甕・蓋、鉄鏃が出土した。須恵器底部全面にヘラケズリを施す成型方法及び形状、薄手の土師器甕頸部「く」の字状形態から7世紀、奈良時代としたい。



Ｈ２号住居址遺物実測図（1）



H２号住居址遺物実測図（2）

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	13.5	9.4	4.2	外面体部・底部ヘラ削り、内面体部放射状暗文。	70	外面 7.5YR5/4 にぶい褐色
2	土師器	坏	13	丸底	4.2	口縁内外面横ナデ、外面ヘラ削り、内面横ナデ・不整ナデ。	80	外面 2.5YR6/6 橙色
3	土師器	甕	[21]	−	−	口縁横ナデ、外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	口縁〜胴部破片	外面 5YR5/8 明赤褐色
4	土師器	甕	[24.2]	−	−	口縁横ナデ、外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	口縁〜頸部破片	外面 5YR6/6 橙色
5	須恵器	坏	13.8	8	4.1	内外面ロクロナデ、底部ヘラ削り。	85	外面 5Y6/1 灰色
6	須恵器	坏	14.5	7.8	4.2	内外面ロクロナデ、底部ヘラ削り。	60	内外面 5Y6/1 灰色
7	須恵器	坏	[12.4]	[8.3]	3.2	内外面ロクロナデ、底部ヘラ削り。	20	外面 N6/0 灰色
8	須恵器	坏	[13.2]	[8.2]	4.3	内外面ロクロナデ、底部ヘラ削り。	25	外面 7.5Y6/1 灰色
9	須恵器	坏	[13.5]	[8]	3.7	内外面ロクロナデ、底部ヘラ削り。	20	外面 2.5YR6/6 橙色
10	須恵器	坏	−	7.2	−	内外面ロクロナデ、底部ヘラ削り、底部付着物あり。	底部 80	外面 2.5Y6/1 黄灰色
11	須恵器	坏	−	7.1	−	内外面ロクロナデ、底部ヘラ削り。	底部 100	外面 2.5Y6/1 黄灰色
12	須恵器	高台付坏	−	9.8	−	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。	底部 100	外面 N6/0 灰色
13	須恵器	甕	[33.4]	−	−	内外面ロクロナデ、自然釉付着。	口縁破片	外面 5Y5/1 灰色他
14	須恵器	甕	−	−	−	内外面ロクロナデ、自然釉付着。	頸部破片	外面 10YR1.7/1 黒色他
15	須恵器	甕	[27.2]	−	−	内外面ロクロナデ。	口縁 40	外面 10YR1.7/1 黒色他
16	須恵器	甕	−	−	−	外面ナデ、内面ヘラナデ	胴部破片	外面 10YR6/1 褐灰色
17	須恵器	甕	−	−	−	外面縄目平行叩き、内面ヘラナデ。	胴部破片	外面 10YR4/1 褐灰色

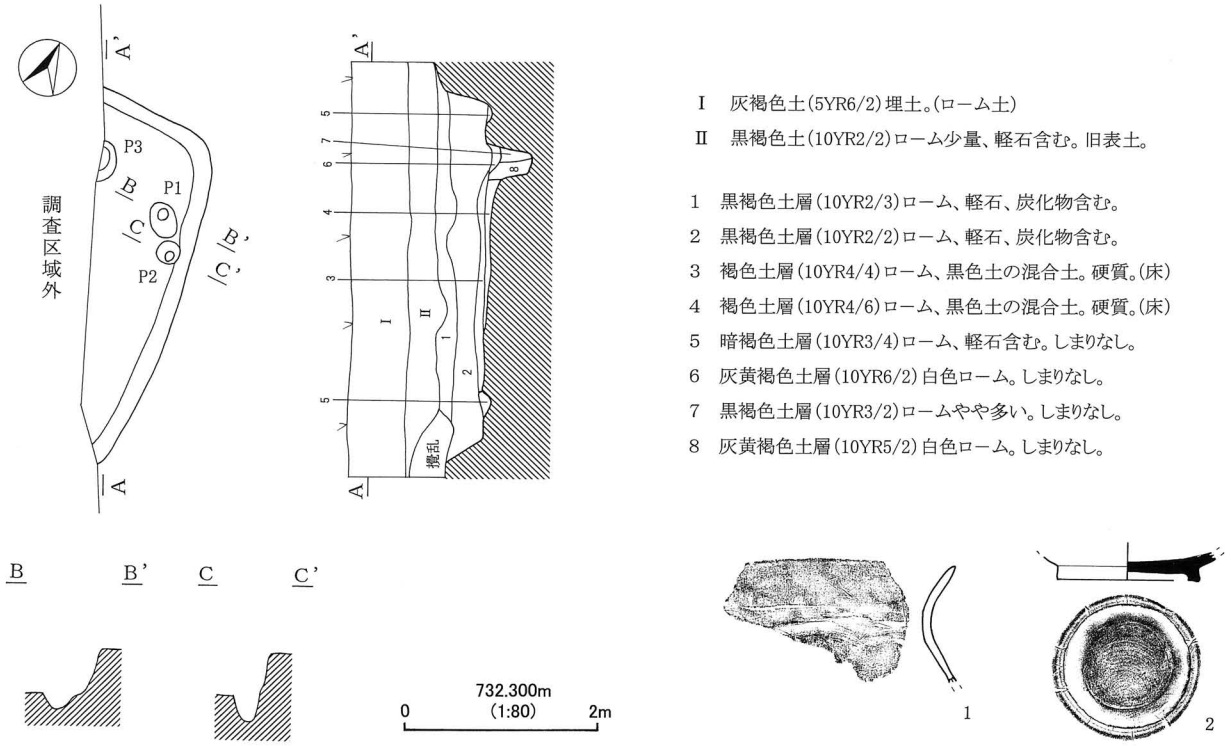
H２号住居址遺物観察表（1）

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
18	須恵器	甕	－	－	－	外面平行叩き、内面ナデ。	胴部破片	外面 2.5Y4/1 黄灰色
19	須恵器	甕	－	－	－	外面平行叩き、内面ナデ。	胴部破片	外面 7.5Y5/1 灰色
20	須恵器	甕	－	－	－	外面平行叩き、内面弧状叩き、内面自然釉付着。	胴部破片	外面 2.5Y7/1 灰白色他
21	軽石製支脚	重量 555 g	長さ 16	底径 8.6	先端径 4	側面、先端部、底部平坦に成形。		
22	軽石製支脚？	重量 109 g	長さ 8.1	底径 5.4	先端径 5.1	側面、先端部、底部平坦に成形。		
23	鉄鏃	重量 24 g	長さ 12.3	刃幅 3.1	刃厚 0.5	錆付着。		
24	鉄鏃	重量 17 g	長さ 10	刃幅 1.8	刃厚 0.5	錆付着。		

Ｈ２号住居址遺物観察表（2）

Ｈ３号住居址

遺構は調査区西端、Ⅱ－く－Ｅグリッドに位置し、西側の大半は調査区域外となる。調査範囲は北東コーナー付近の一部である。調査規模は、北壁1.1m、東壁3.2m、確認面から床面までの深さは40cm内外を測る。床面は壁際を除き貼り床が施され、硬質である。ピットは床面上で3個確認でき、Ｐ3が主柱穴の一つと考えられる。壁溝、カマドは確認できなかった。遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・甕が出土した。土師器甕の頸部が「コ」の字になる前段階であることから7世紀、奈良時代としたい。



Ｈ３号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	甕	－	－	－	口縁横ナデ。	口縁破片	外面 2.5YR3/2 暗赤褐色
2	須恵器	高台付坏	－	7.4	〈2〉	底部回転糸切り後高台貼り付け。 体部欠損しているが再利用の可能性あり。	高台・底部 100	外面 N4/0 灰色

Ｈ３号住居址遺物観察表

第２節　掘立柱建物址（Ｆ）

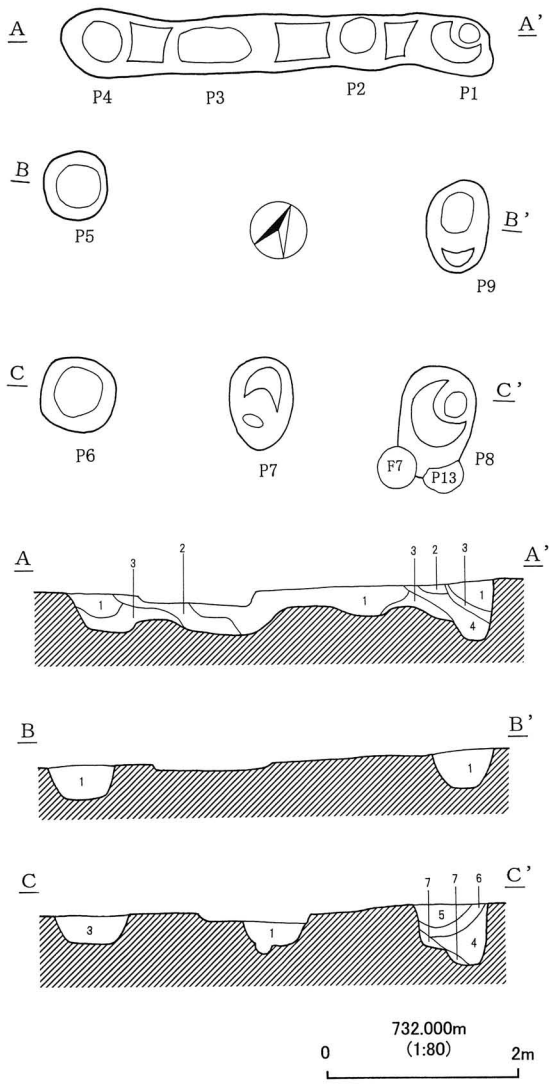
Ｆ１号掘立柱建物址

遺構はⅡ－き－Ｃグリッド周辺に位置し、Ｆ7を切る。確認できたピットは、西側2間、東側2間、北側は溝持ちで3間、南側2間の9個が認められた。全体の規模は、東西4.0m、南北3.9m、ピットの形状は円形または楕円形で、径0.6～1.2m、深さ30～65cmを測る。柱に囲まれた内側にピットが認められなかったことから側柱の掘立柱建物址と考えられる。

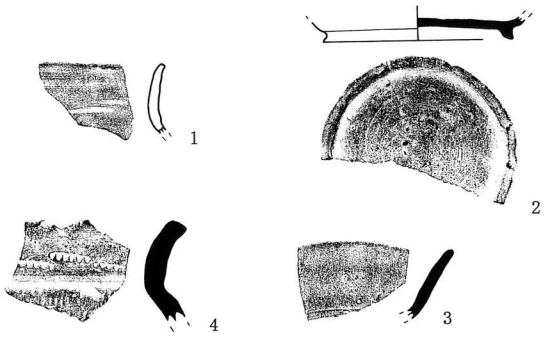
Ｆ２号掘立柱建物址

遺構はⅡ－う－Ａグリッド周辺に位置する。確認できたピットは5個で、北側2間、南及び東西は1間の側柱と考えられる。全体の規模は東西2.6m、南北2.0mである。ピットの形状は、北側中央部のピットがやや方形である他は円形で、径28～60cm、深さ20～40cmを測る。

Ｆ１号掘立柱建物址

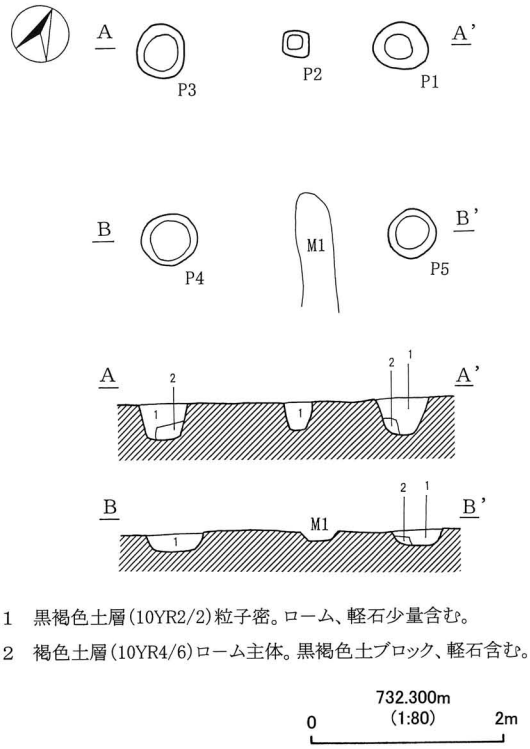


1　黒褐色土層(10YR2/2)軽石、ローム含む。粒子密。
2　褐色土層(10YR4/6)ロームブロック主体。
3　暗褐色土層(10YR3/4)ローム、軽石やや多い。
4　黒褐色土層(10YR2/3)ローム、軽石少量含む。
5　暗褐色土層(10YR3/4)ローム、軽石多い。
6　褐色土層(10YR4/6)ローム主体。黒褐色土、軽石含む。
7　黄褐色土層(10YR5/6)ローム主体。黒褐色土含む。



Ｆ１号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

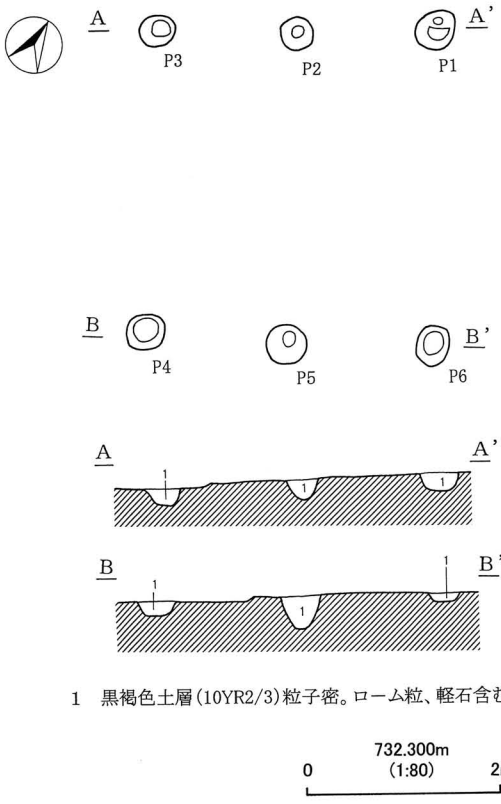
Ｆ２号掘立柱建物址



1　黒褐色土層(10YR2/2)粒子密。ローム、軽石少量含む。
2　褐色土層(10YR4/6)ローム主体。黒褐色土ブロック、軽石含む。

Ｆ２号掘立柱建物址実測図

Ｆ３号掘立柱建物址



1　黒褐色土層(10YR2/3)粒子密。ローム粒、軽石含む。

Ｆ３号掘立柱建物址実測図

Ｆ３号掘立柱建物址

遺構はⅡ－う－Ｄグリッド周辺に位置する。確認できたピットは6個で、東西2間、南北1間の側柱と考えられる。全体の規模は東西3.0m、南北3.4mである。ピットの形状は円形で、径35～42cm、深さ10～35cmを測る。

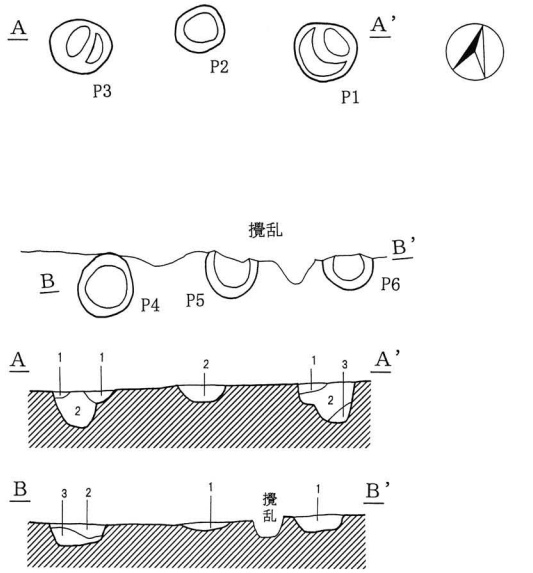
Ｆ４号掘立柱建物址

遺構はⅡ－い－Ｃグリッド周辺に位置し一部攪乱に破壊される。確認できたピットは6個で、東西2間、南北1間の側柱と考えられる。全体の規模は東西2.6m、南北2.6mである。ピットの形状は円形で、径50～70cm、深さ10～45cmを測る。

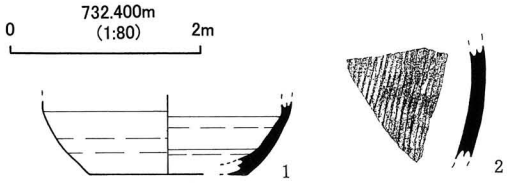
Ｆ５号掘立柱建物址

遺構はⅡ－お－Ａグリッド周辺に位置する。確認できたピットは8個で、東西2間、南北2間の側柱と考えられる。全体の規模は東西3.8m、南北5.0mである。ピットの形状はＰ2・6が方形に近い他は、ほぼ円形であり、ピットの規模は、径25～75cm、深さ10～40cmを測る。

Ｆ４号掘立柱建物址

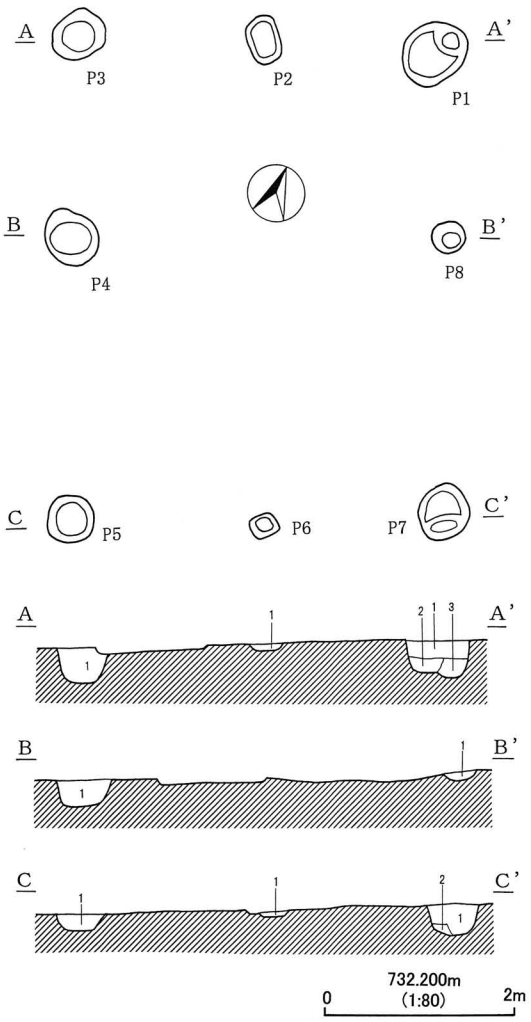


1　暗褐色土層(10YR3/3)ローム、黒褐色土、軽石含む。
2　黒褐色土層(10YR2/2)粒子密。ローム、軽石少量含む。
3　暗褐色土層(10YR3/3)ローム、軽石含む。



Ｆ４号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

Ｆ５号掘立柱建物址



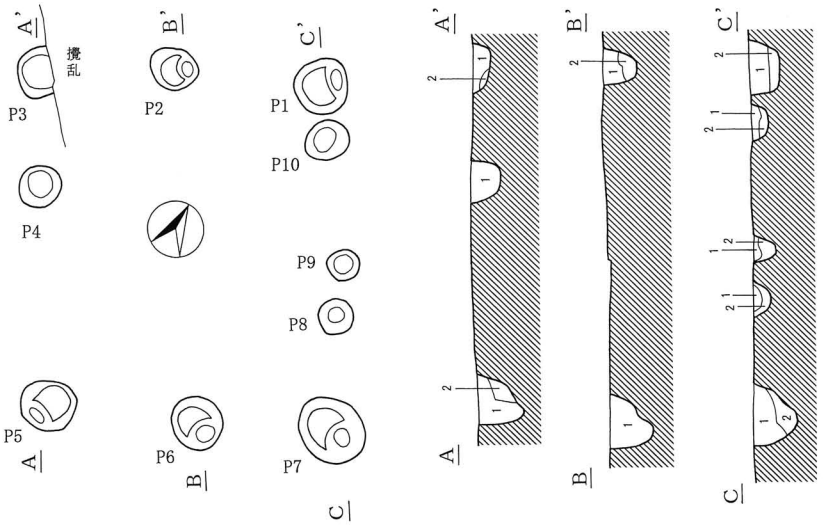
1　黒褐色土層(10YR2/2)粒子密。ローム、軽石含む。
2　暗褐色土層(10YR3/3)ローム、軽石含む。
3　にぶい黄褐色土層(10YR4/3)ローム主体。暗褐色土、軽石含む。

Ｆ５号掘立柱建物址実測図

Ｆ６号掘立柱建物址

遺構はⅡ－き－Ａグリッド周辺に位置する。確認できたピットは10個であるが、Ｐ4、8、9、10は伴うか断定できない。規模は東西3.2m、南北3.8mである。ピットの形状は円形で、規模は小ピットも含めると、径35～75cm、深さ20～50cmを測る。

Ｆ６号掘立柱建物址



1　黒褐色土層(10YR2/2)粒子密。ローム、軽石含む。

2　暗褐色土層(10YR3/4)ローム多い。軽石含む。

Ｆ６号掘立柱建物址実測図

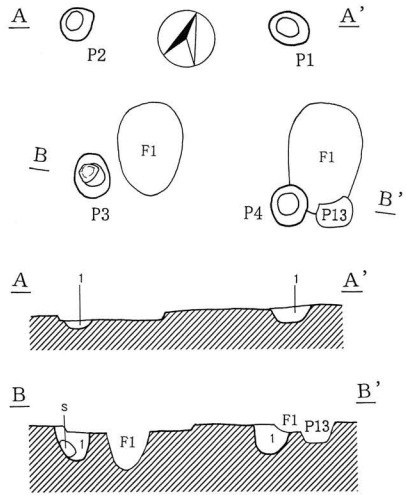
Ｆ７号掘立柱建物址

遺構はⅡ－き－Ｃグリッド周辺に位置し、Ｆ1に切られる。確認できたピットは4個で、1×1間の側柱と考えられる。規模は南北1.8m、東西2.1mである。ピットの形状は円形で、径25cm内外、深さ12～32cmを測る。

Ｆ８号掘立柱建物址

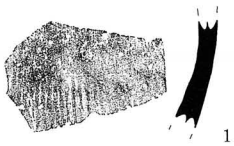
遺構はＩ－く－Ｊグリッド周辺に位置する。確認できたピットは南北1間、東西2間の4個である。確認状況から、遺構は北に広がると考えられる。調査規模は南北1.8m、東西4.0mである。ピットの形状は、ほぼ円形で直径50～68cm、深さ16～32cmを測る。

Ｆ７号掘立柱建物址



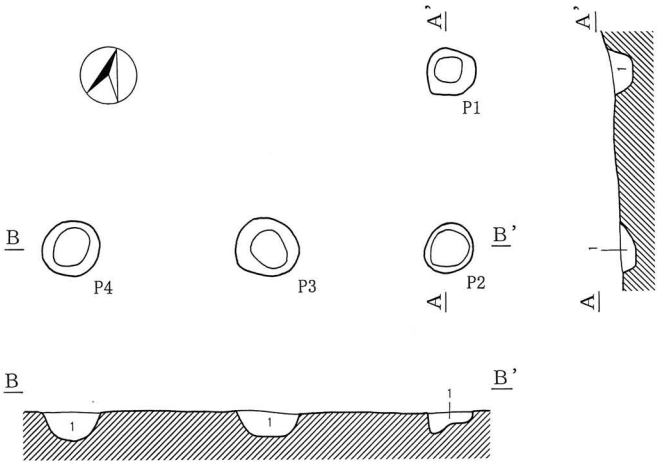
1　黒褐色土層(10YR2/3)ローム、軽石少量含む。

732.000m
(1:80)
0
2m



Ｆ７号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

Ｆ８号掘立柱建物址



1　黒褐色土(10YR2/3)ローム、軽石含む。

732.200m
(1:80)
0
2m

Ｆ８号掘立柱建物址実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
F1-1	土師器	甕	－	－	－	口縁横ナデ。	口縁破片	外面 2.5YR4/4 にぶい赤褐色
F1-2	須恵器	高台付坏	－	9.8	－	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。	底部 60	外面 5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色
F1-3	須恵器	坏	－	－	－	ロクロナデ。	口縁破片	外面 5Y4/1 灰色
F1-4	須恵器	甕	－	－	－	口縁横ナデ、口縁外面叩き痕。	口縁～頸部破片	外面 10YR6/3 にぶい黄橙色
F4-1	須恵器	壺？	－	[8.4]	－	ロクロナデ、底部ヘラ調整。	底部～胴部破片	内外面 N7/0 灰白色
F4-2	須恵器	甕	－	－	－	外面平行叩き、内面ナデ。	胴部破片	外面 10R4/3 赤褐色
F7-1	須恵器	甕	－	－	－	外面わずかに叩き痕、内面ナデ。	胴部破片	内外面 2.5Y7/1 灰白色

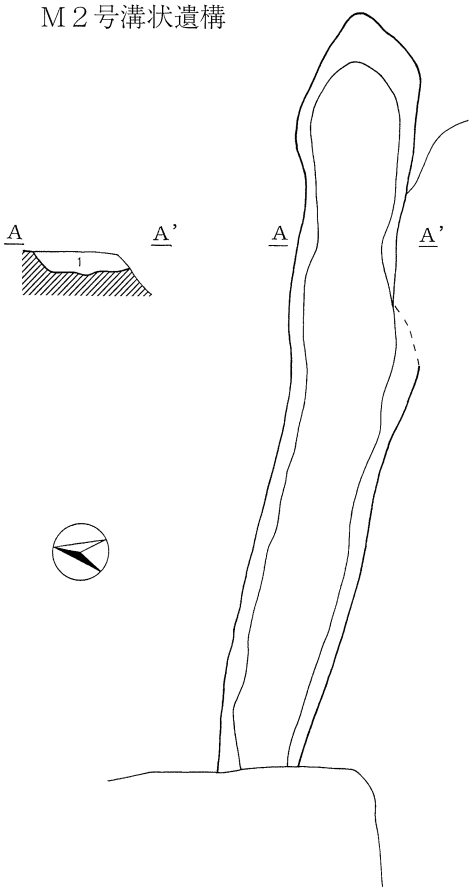
掘立柱建物址遺物観察表

第３節　溝状遺構（M）

Ｍ１号溝状遺構

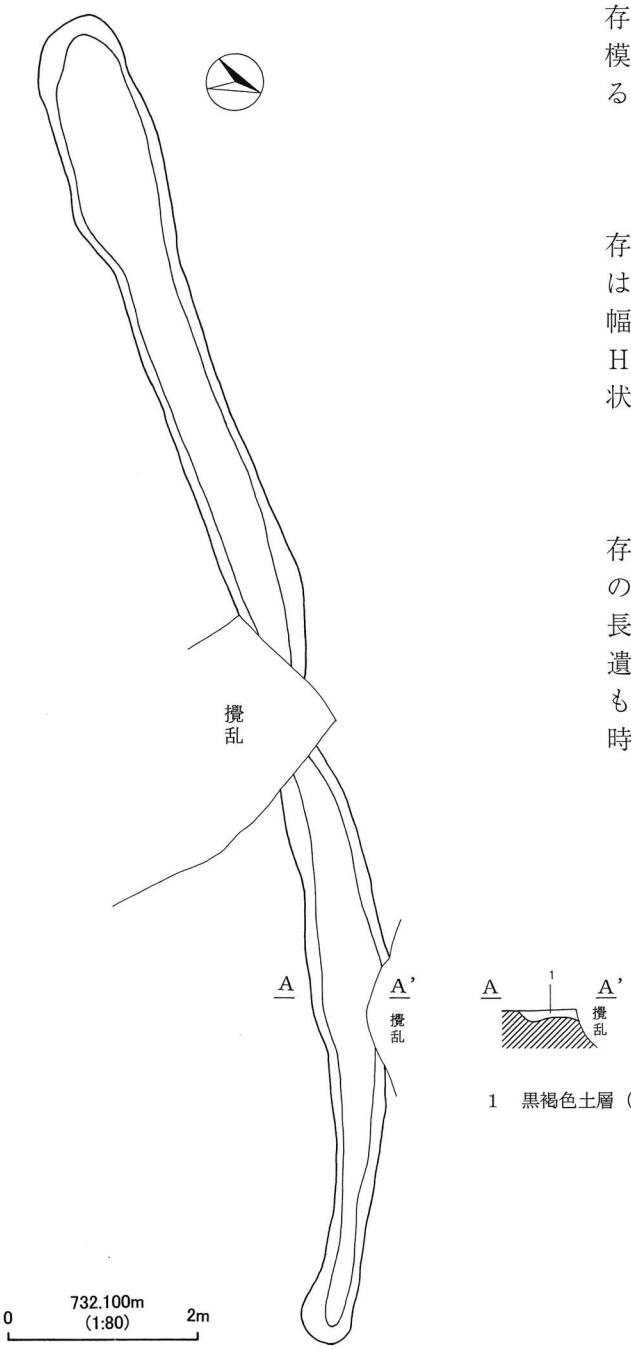
Ｍ１号溝状遺構実測図

Ｍ２号溝状遺構



Ｍ２号溝状遺構　遺構・遺物実測図

Ｍ３号溝状遺構



1　黒褐色土層（10YR2/3）ローム粒、軽石含む。

Ｍ３号溝状遺構　遺構・遺物実測図

Ｍ１号溝状遺構

遺構はⅡ－う－ＡからⅡ－い－Ｅグリッドにかけて存在し、北から南に向かって緩やかに傾斜する。規模は長さ15.6m、幅0.35～0.8m、深さは10～30cmを測る。

Ｍ２号溝状遺構

遺構はⅡ－う－ＥからⅡ－き－Ｅグリッドにかけて存在し、東から西に向かって緩やかに傾斜する。西側は調査区域外に続く。規模は調査規模で、長さ18m、幅0.9～1.4m、深さ30cmを測る。時期は、奈良時代のＨ2号住居址に切られることから、奈良時代以前の溝状遺構と考えられる。

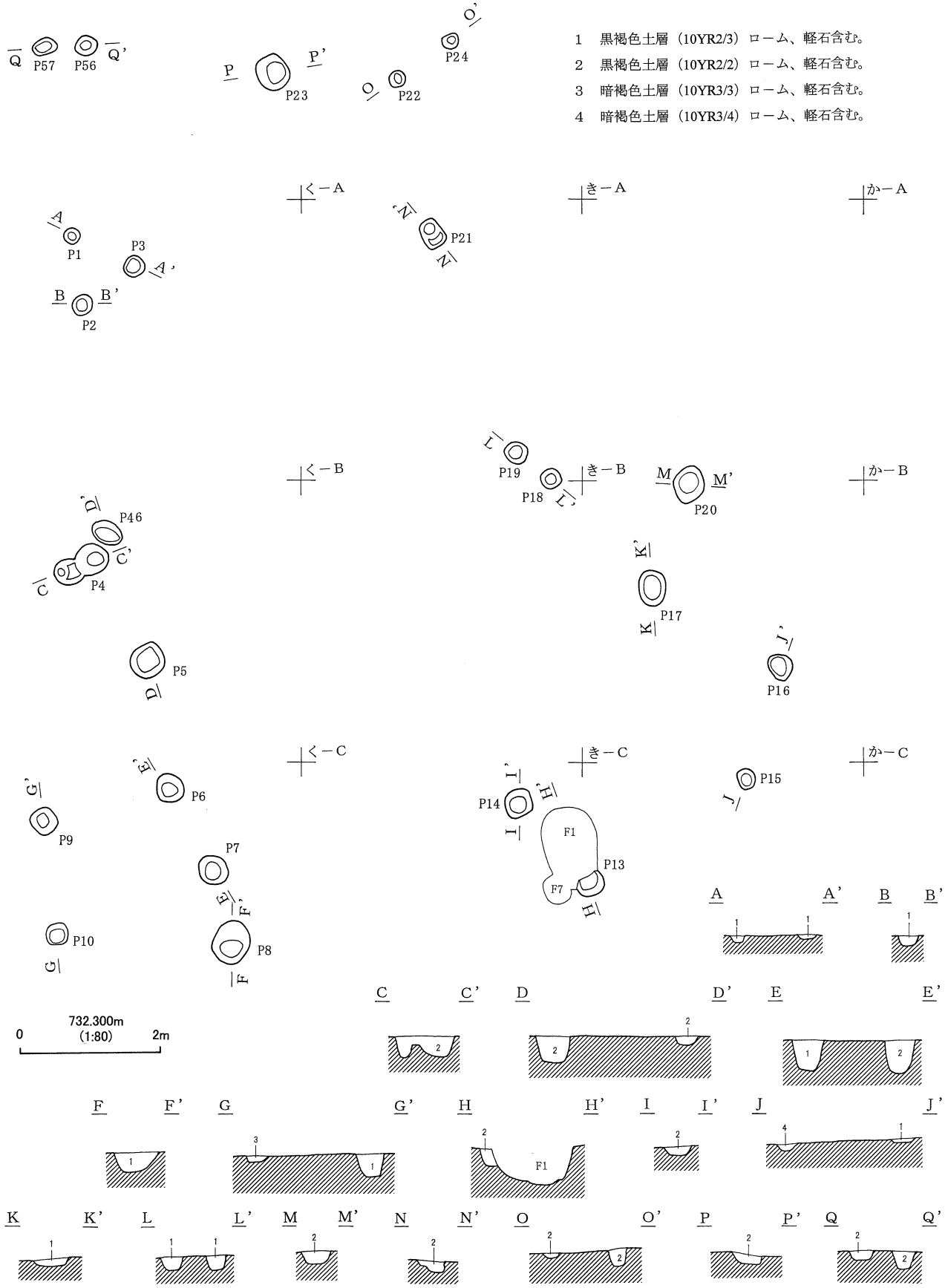
Ｍ３号溝状遺構

遺構はⅡ－う－ＥからⅡ－か－Ｇグリッドにかけて存在し、東から西に向かって緩やかに傾斜する。遺構の一部は近年の撹乱によって破壊されている。規模は長さ14.5m、幅0.4～1.1m、深さ10～30cmを測る。本遺構は、M2が、Ⅱ－う－Ｅグリッド付近で分岐したものと思われることから、 時期はM2と同時期の奈良時代以前と考えられる。

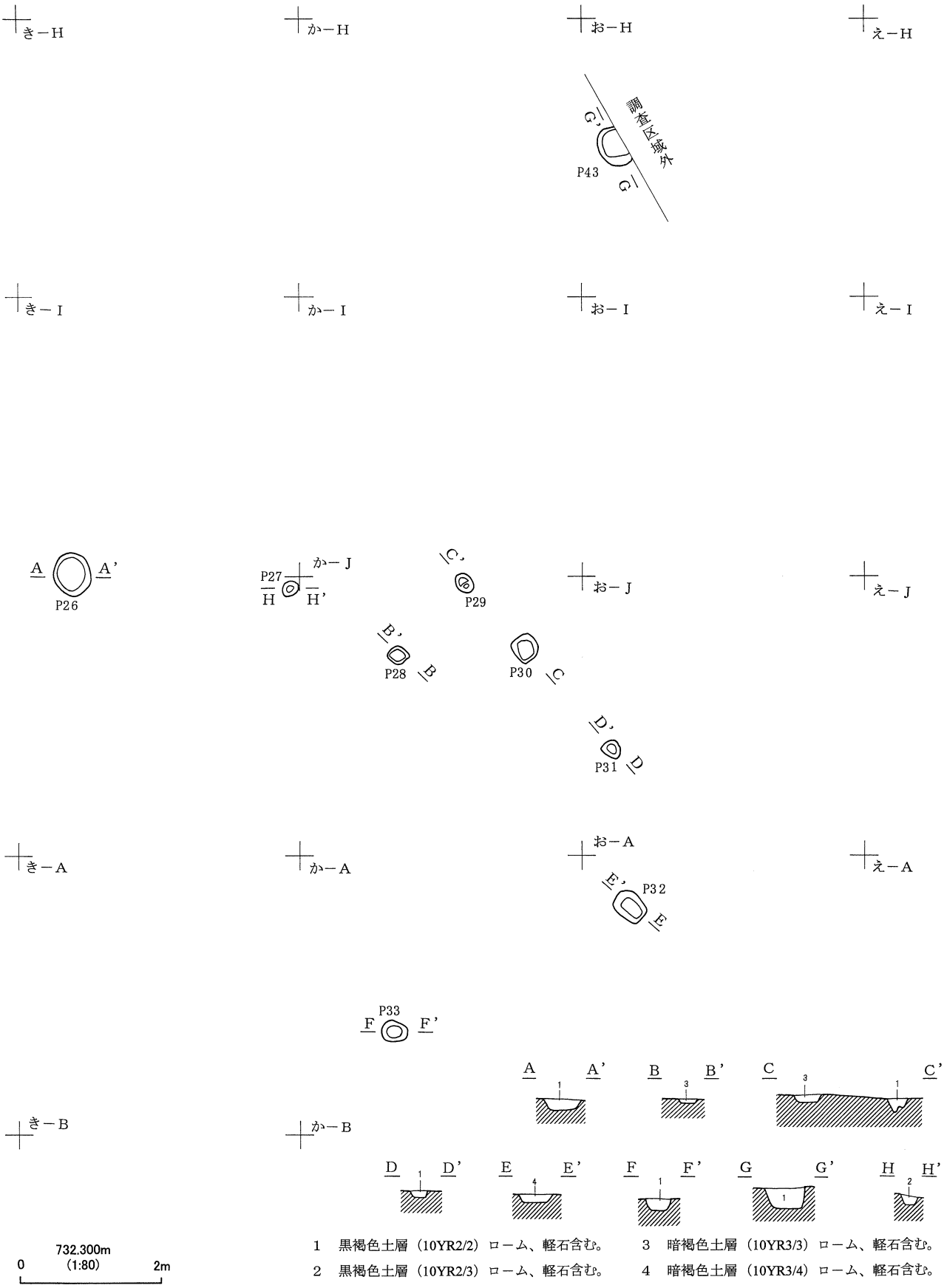
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
M2-1	土師器	甕	－	－	－	口縁横ナデ、口縁外面縦ミガキ。NO2と同一個体の可能性あり。	口縁破片	外面 10YR2/1 黒色
M2-2	土師器	甕	－	－	－	外面ミガキ、内面ナデ。NO1と同一個体の可能性あり。	頸部破片	外面 10YR2/1 黒色
M2-3	須恵器	甕	－	－	－	外面細かい縄目平行叩き。内面弧状叩き。	胴部破片	外面 7.5YR5/1 褐灰色
M3-1	土師器	甕	－	－	－	口縁ロクロナデ。	口縁～胴部破片	外面 10YR3/1 黒褐色
M3-2	土師器	甕	－	－	－	外面摩耗、内面ヘラナデ。	胴部破片	外面 10YR3/3 暗褐色

溝状遺構遺物観察表

第４節　ピット（Ｐ）

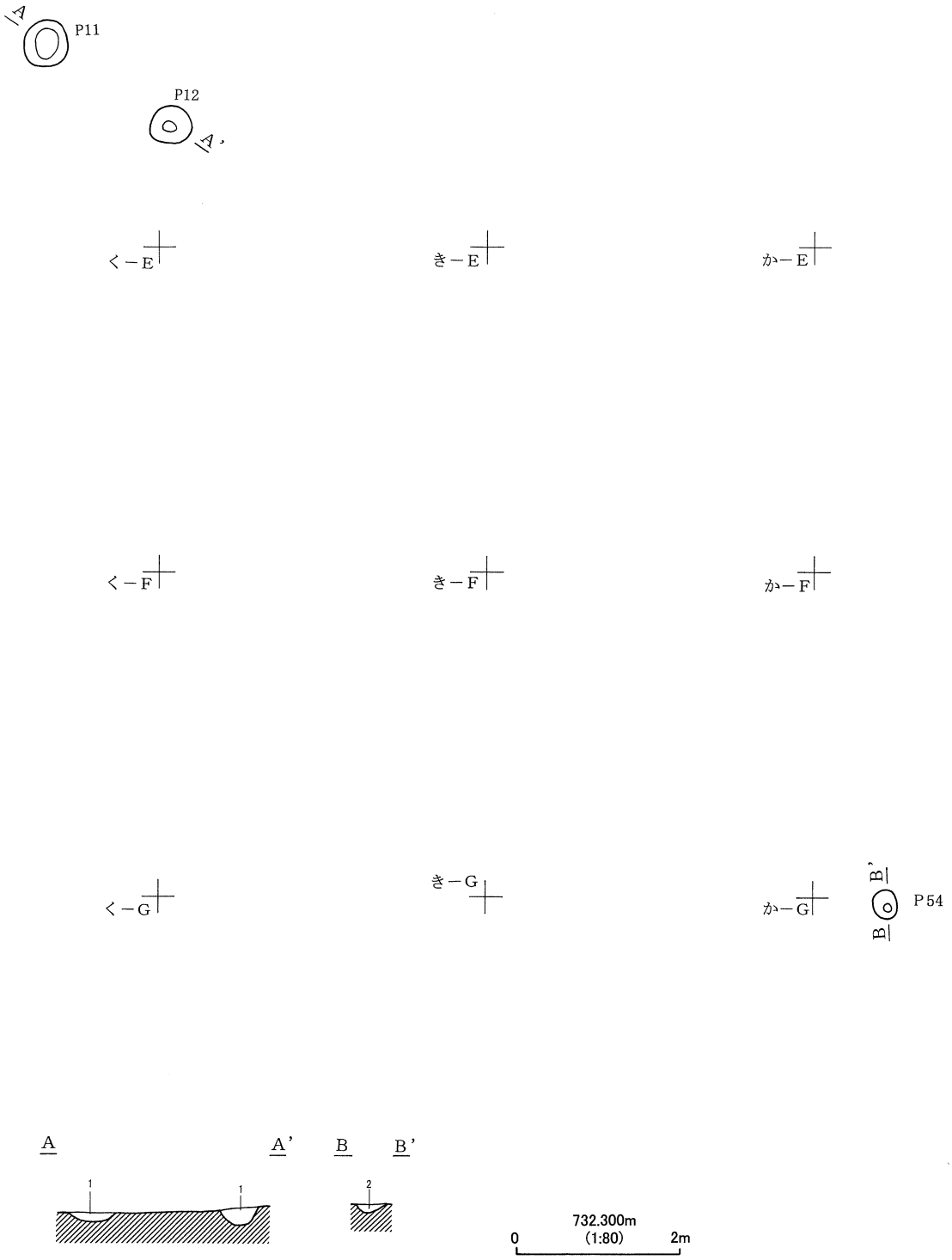


ピット実測図（１）



1　黒褐色土層（10YR2/2）ローム、軽石含む。
2　黒褐色土層（10YR2/3）ローム、軽石含む。
3　暗褐色土層（10YR3/3）ローム、軽石含む。
4　暗褐色土層（10YR3/4）ローム、軽石含む。

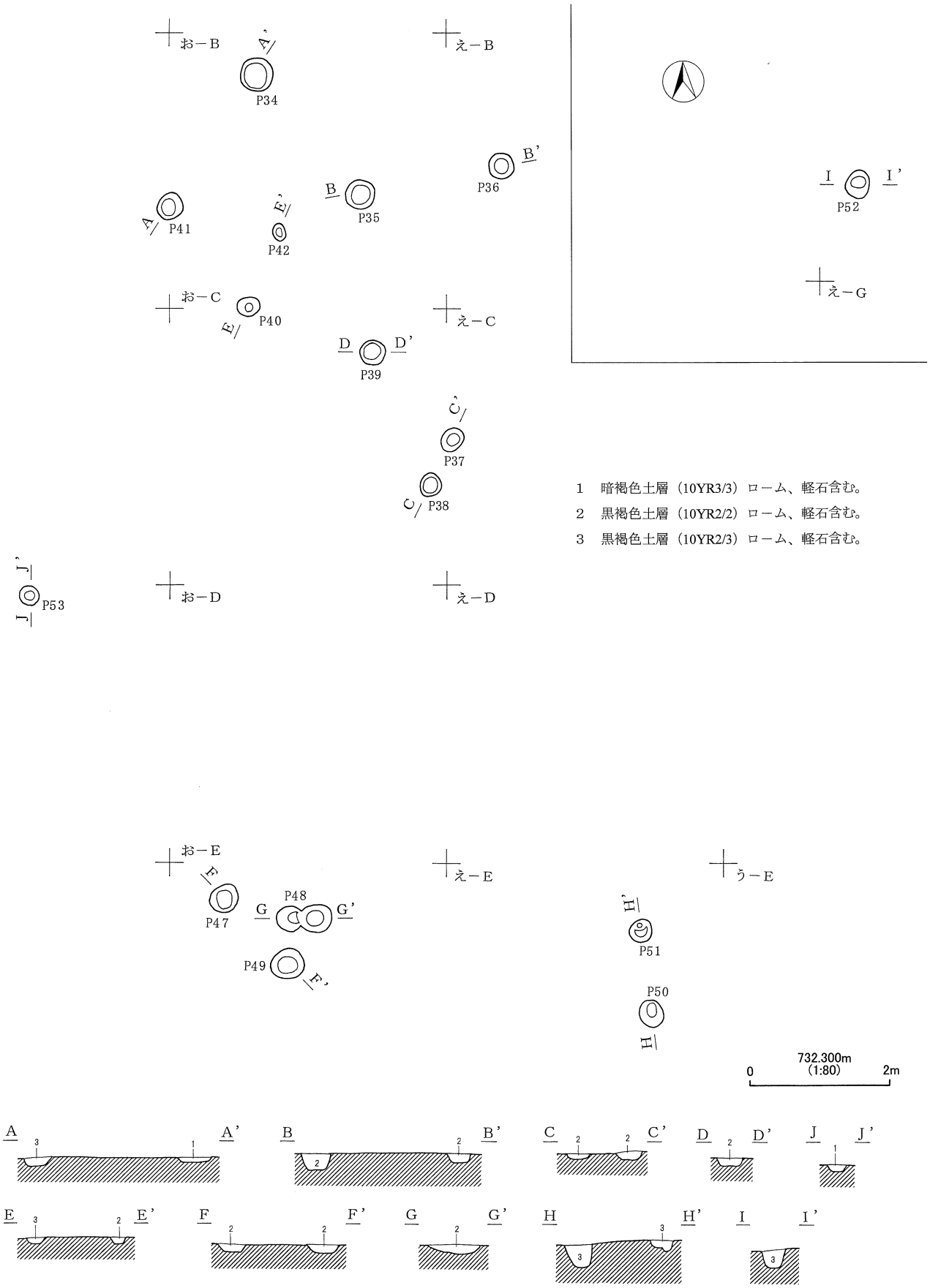
ピット実測図（2）



1　暗褐色土層（10YR3/3）ローム、軽石含む。

2　黒褐色土層（10YR2/3）ローム、軽石含む。

ピット実測図（3）

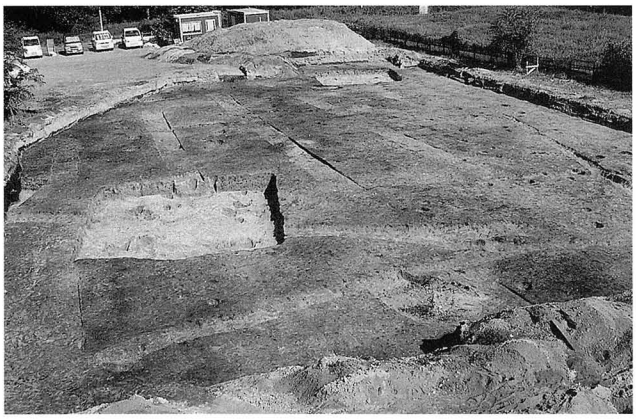

お－B
え－B
P34
P36
P35
P41
P42
P52
え－G
お－C
P40
え－C
P39
P37
P38
1　暗褐色土層（10YR3/3）ローム、軽石含む。
2　黒褐色土層（10YR2/2）ローム、軽石含む。
3　黒褐色土層（10YR2/3）ローム、軽石含む。
P53
お－D
え－D
お－E
え－E
う－E
P47
P48
P49
P51
P50
732.300m
(1:80)
0
2m

ピット実測図（4）

長土呂遺跡群　上聖端遺跡Ⅱ調査区全景（南から）

調査区全景（北から）

調査風景（南から）



調査区近景（南から）

調査風景（北から）

Ｈ１号住居址全景（南から）

Ｈ１号住居址カマド（南から）

Ｈ１号住居址カマド石材使用状況

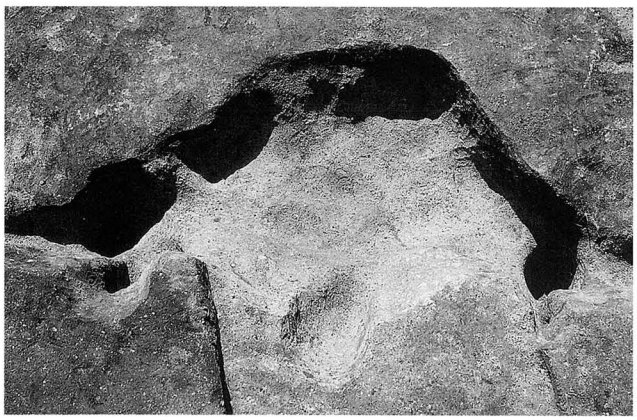
Ｈ１号住居址カマド掘方（南から）

Ｈ１号住居址掘方（南から）

Ｈ２号住居址全景（南から）

Ｈ２号住居址カマド（南から）

Ｈ２号住居址カマド火床（南から）

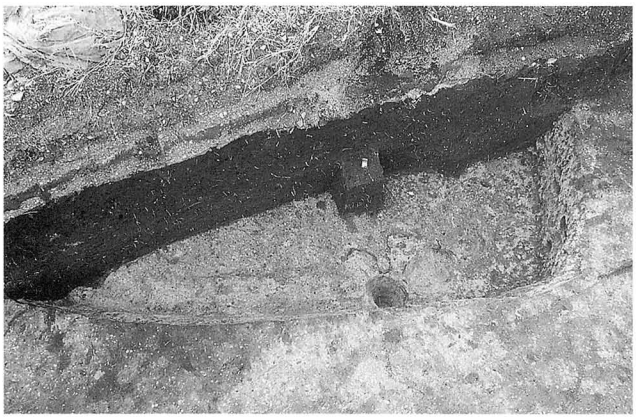


Ｈ２号住居址カマド掘方（南から）

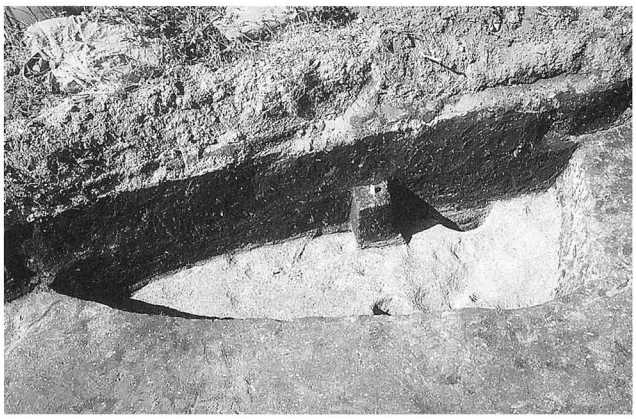
Ｈ２号住居址掘方（東から）

Ｈ２号住居址遺物出土状況

Ｈ２号住居址支脚石出土状況



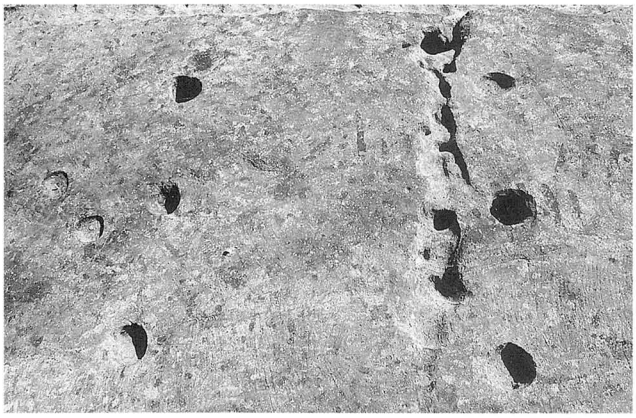
Ｈ３号住居址全景（東から）



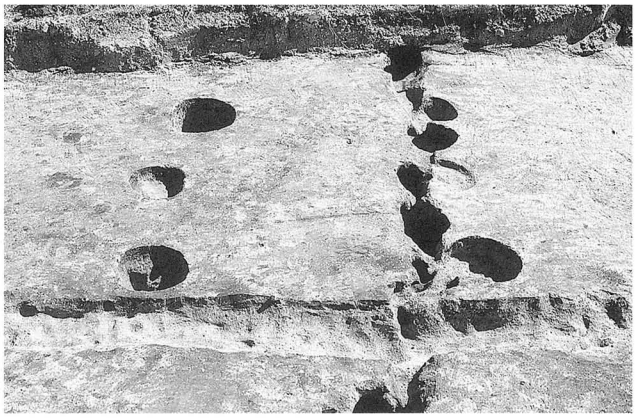
Ｈ３号住居址掘方（東から）

Ｆ１号掘立柱建物址（南から）

Ｆ２号掘立柱建物址（南から）



Ｆ３号掘立柱建物址（西から）



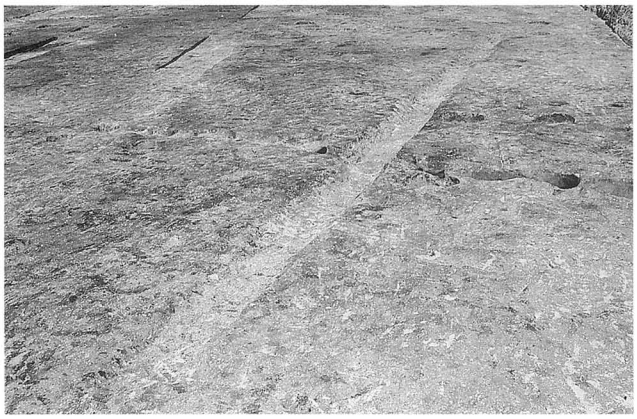
Ｆ４号掘立柱建物址（西から）

Ｆ５号掘立柱建物址（西から）

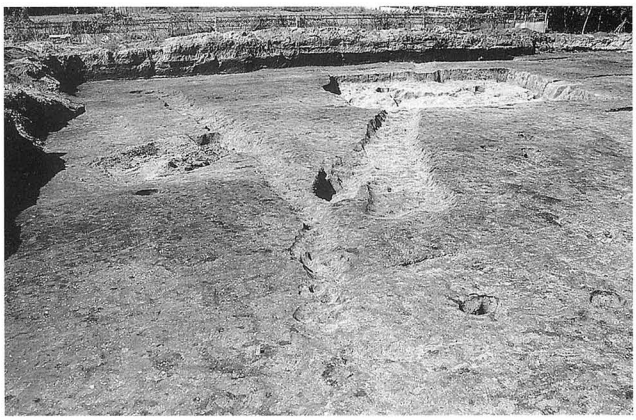
Ｆ６号掘立柱建物址（南から）

Ｆ７号掘立柱建物址（北から）

Ｆ８号掘立柱建物址（西から）

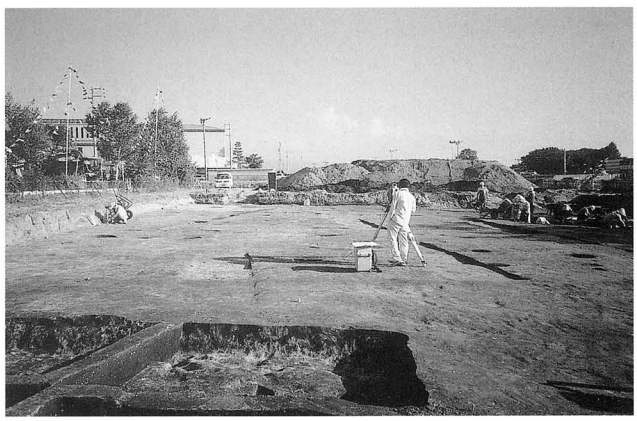


Ｍ１号溝状遺構（南から）

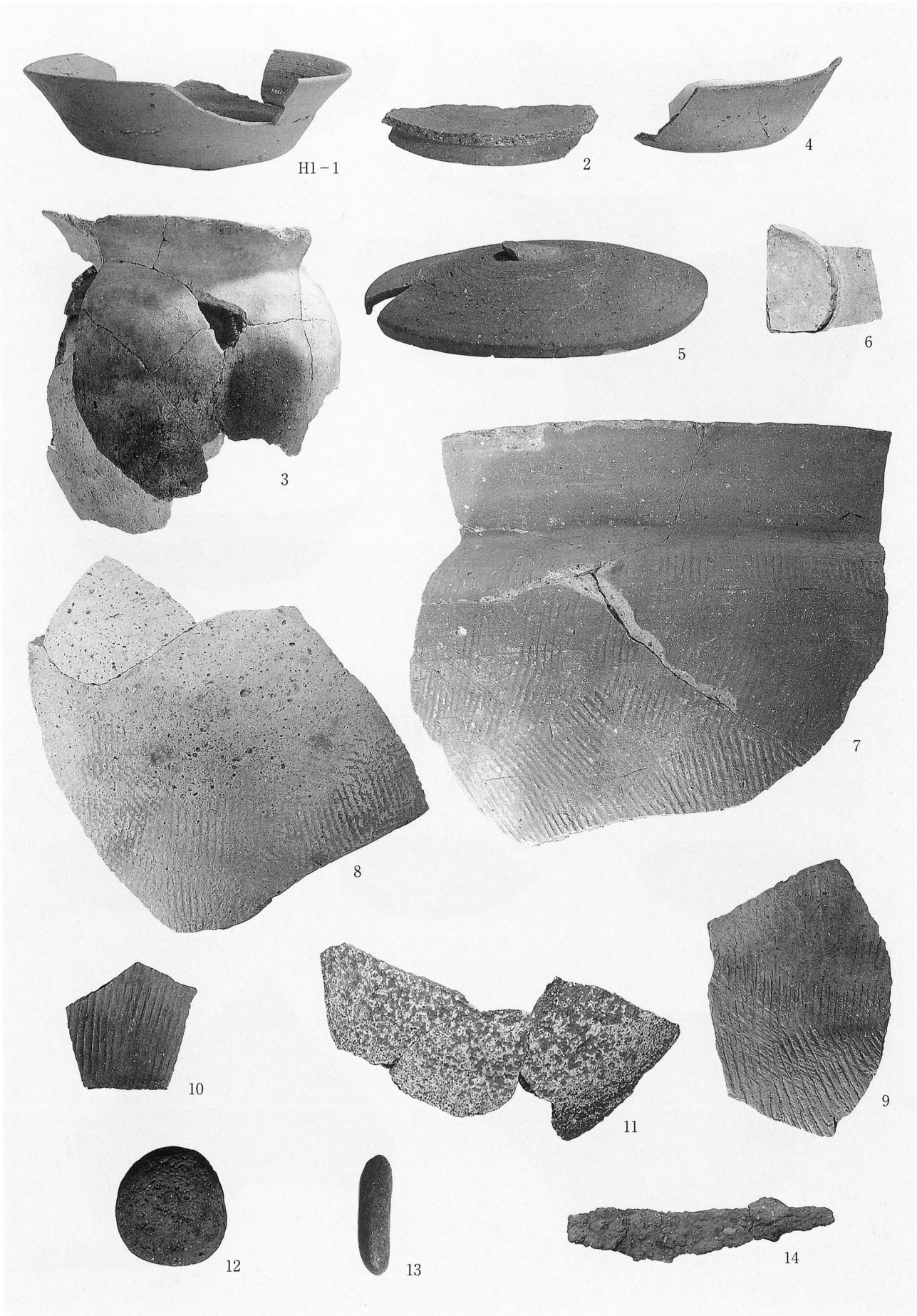


Ｍ２・３号溝状遺構（東から）

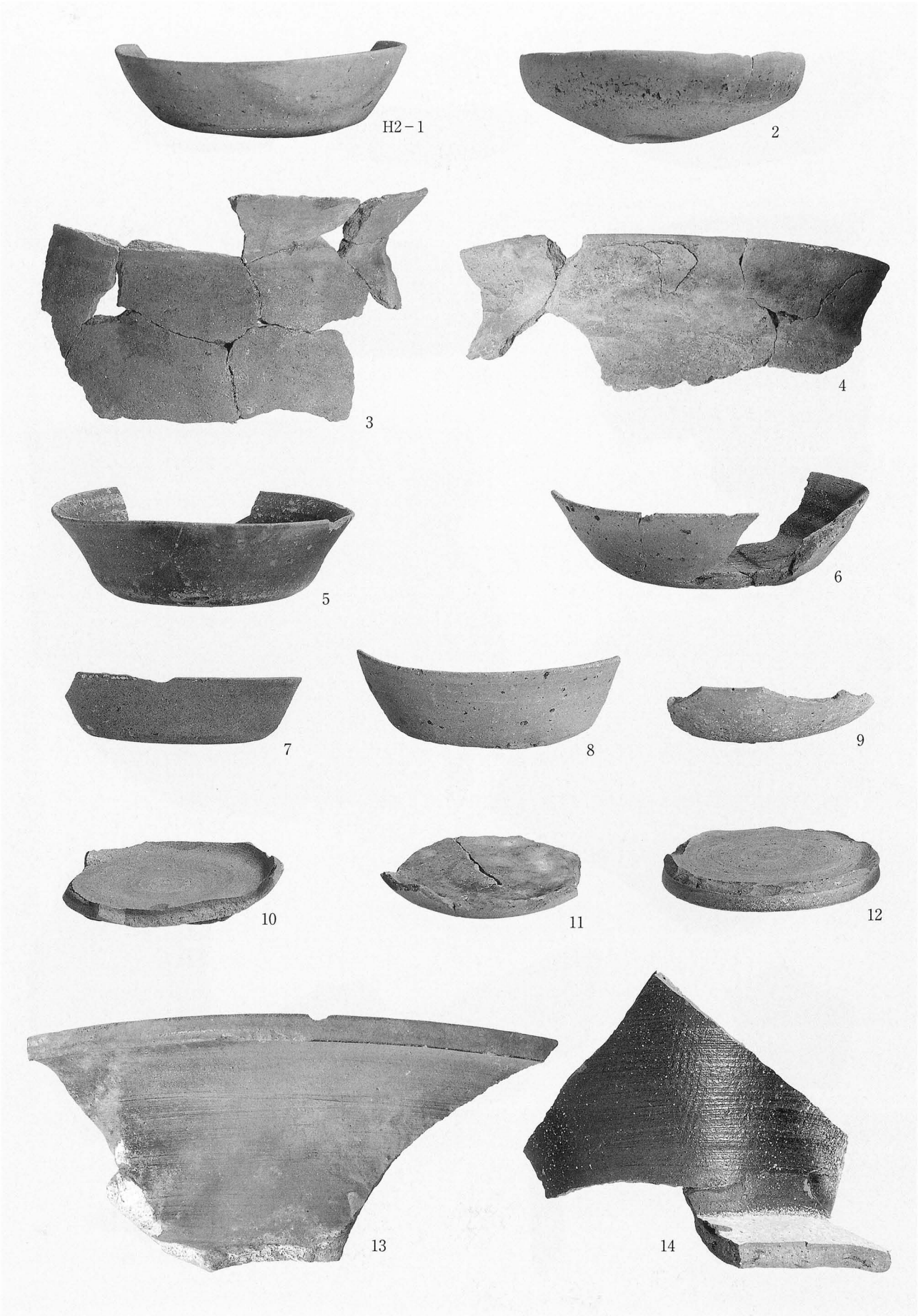
表土除去作業風景



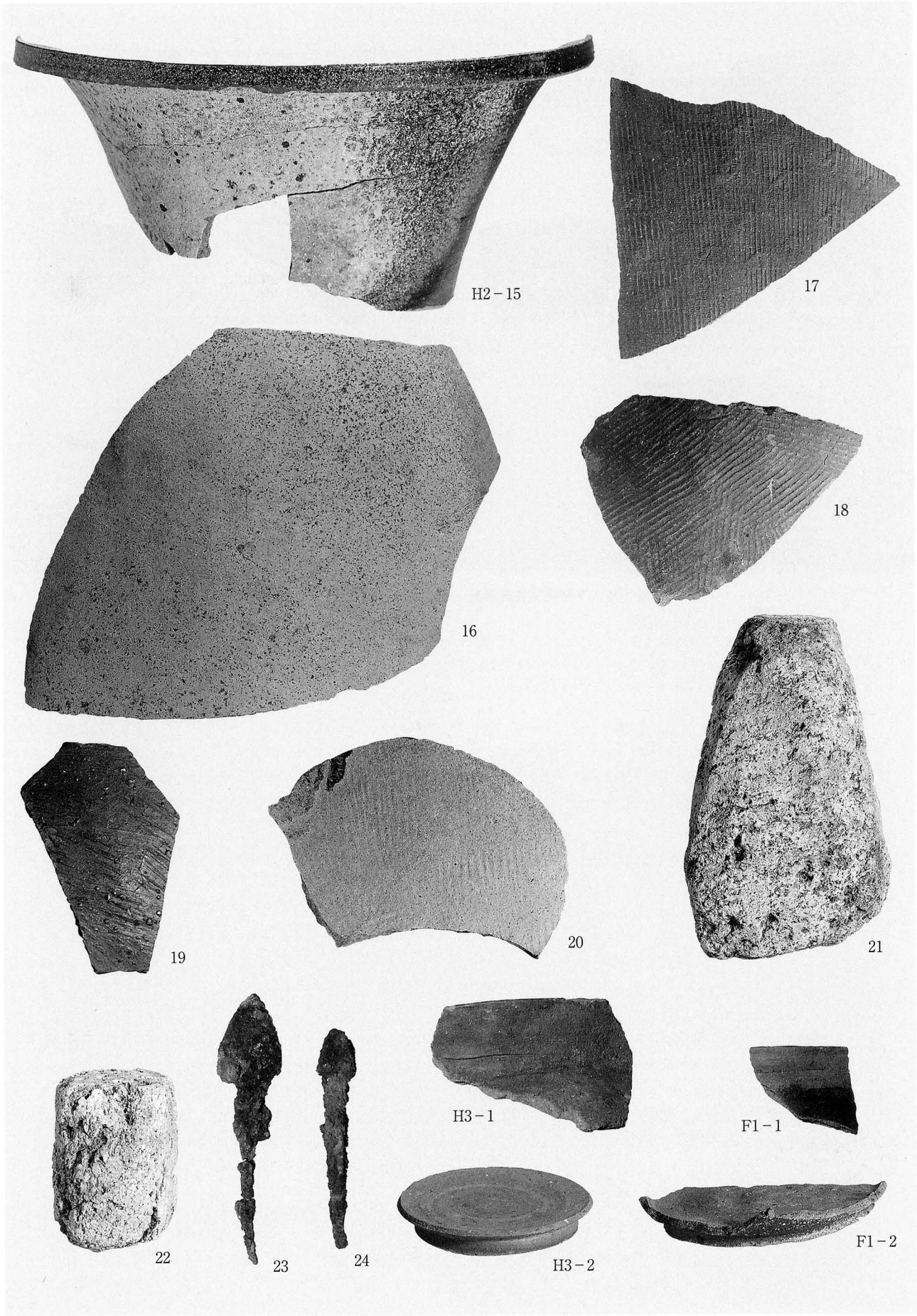
基準杭設定作業風景



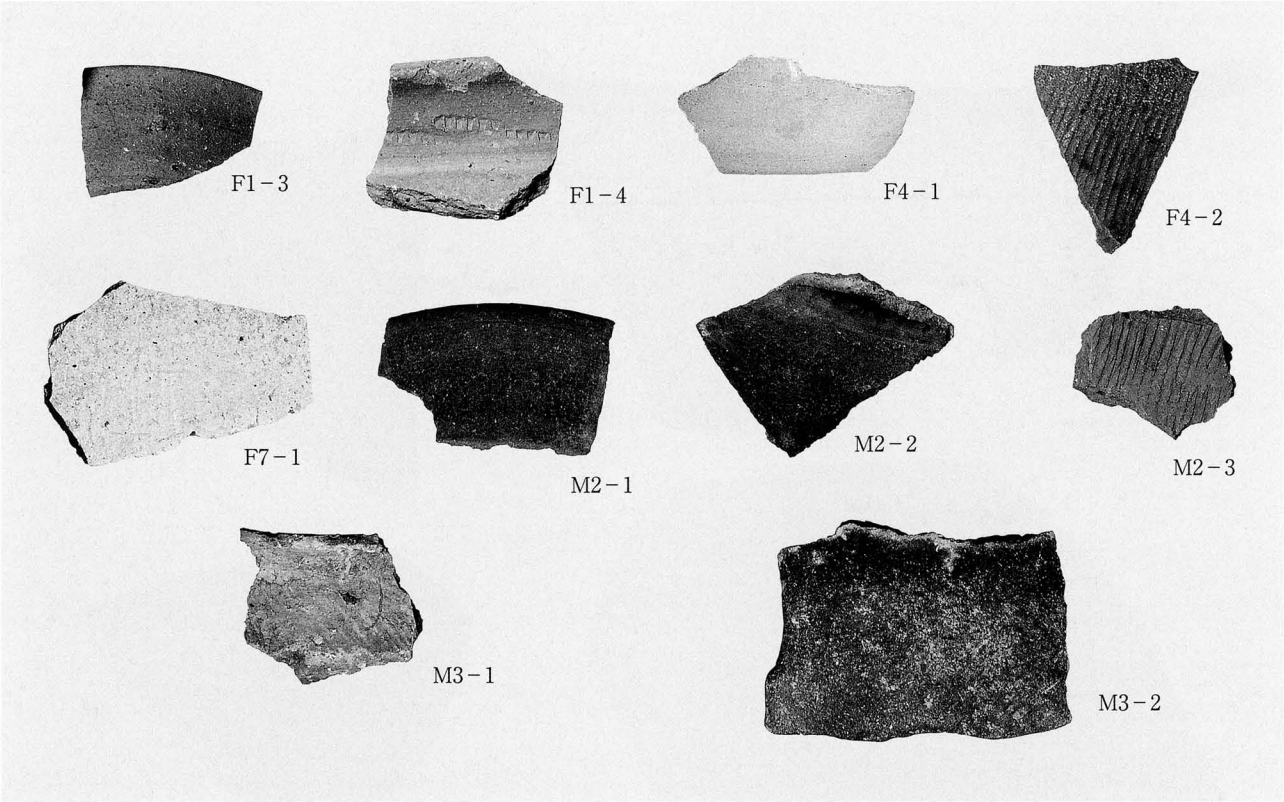
Ｈ１号住居址出土遺物（No13のみ縮尺が異なる）



Ｈ２号住居址出土遺物



Ｈ２・３号住居址、Ｆ１号掘立柱建物址出土遺物



Ｆ１・４・７号掘立柱建物址、Ｍ２・３号溝状遺構出土遺物

ふりがな	ながとろいせきぐん　かみひじりばたいせきに
書　　名	長土呂遺跡群　上聖端遺跡Ⅱ
副　書　名	－
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第211集
編著者名	上原　学
編集機関	佐久市教育委員会文化財課
所　在　地	長野県佐久市志賀5953　TEL 0267-68-7321　FAX 0267-68-7323
発行年月日	平成24年12月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積㎡	発掘原因
ながとろいせきぐんかみひじりばたいせきに	さくし ながとろ	20217	9	36°17′15″	138°28′35″	20110912 ～ 20110930	869	本社及び福祉用具メンテナンス物流センター建設
長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ	佐久市 長土呂 159-1、159-2、159-3							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ	集落	奈良時代	竪穴住居址3、掘立柱建物址8、溝状遺構3、ピット	土師器、須恵器、石製品、鉄製品	奈良時代の住居址等を中心とした集落跡が発見された。

要　約	佐久地域特有の浅間山麓から放射状に延びる細長い田切り地形の台地上に展開する遺跡である。今回の調査対象地からは、奈良時代の住居址3軒及び奈良時代の遺物を伴う掘立柱建物址8棟が発見され、ほぼ単独の時代構成であった。しかし、同一台地上のほぼ隣接する北東には古墳時代から平安時代の住居址900軒が調査された聖原遺跡が所在していることから、上聖端遺跡Ⅱ周辺地域では、古墳時代から平安時代にかけて大規模な集落が継続して形成されていたことが想定される。

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第211集

長土呂遺跡群　上聖端遺跡Ⅱ

2012年12月

編集・発行　佐久市教育委員会
〒385-8501　長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006　長野県佐久市志賀5953
TEL 0267-68-7321

印　刷　所　臼田活版株式会社
〒384-0301　長野県佐久市臼田2016
TEL 0267-82-2109

'12 佐久市埋蔵文化財調査報告書 第211集

長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ

エフビー介護サービス株式会社・佐久市教育委員会